



伯友

2021 No.79

目 次

□会長挨拶：会長インタビュー	藤本久俊 (31)	1
□会務報告		8
2021 年度総会結果報告		
第 1 号議案 2020 年度事業報告		8
第 2 号議案 2020 年度収支決算報告		9
第 3 号議案 2021 年度事業計画		10
第 4 号議案 2021 年度収支予算		11
□先生を訪ねて 高橋純雄六甲学院校長先生		12
□第 14 回六甲伯友会 OB 講演会 (関本 剛)	林 豊 (34)	15
□支部だより		
シンガポール伯友会との WEB 対談		16
シンガポール 善野多加良 (50)、吉田泰晴・山中浩之 (58)、森山遼 (65)		
アメリカ 中村 崇明 (50)		
広報委員会 宇都宮 光 (20)、藤枝 誠 (50)		
シンガポール支部 活動報告	吉田泰晴 (58)	22
シンガポール支部 懇親会開催報告	吉田泰晴 (58)	22
□同期会だより		23
18 期、23 期		
□クラブ OB 会だより		
山岳部 OB 会報告	佐藤俊介 (34)	24
□出版案内・本紹介		
『天からのほしご』創世記<下>	～焚き火を囲んで聴く神の物語・説教篇 2～	
	大頭真一 (36)	24
『栄光への脱出』出エジプト記	～焚き火を囲んで聴く神の物語・説教篇 3～	
	大頭真一 (36)	24
『聖なる神の聖なる民』レビ記	～焚き火を囲んで聴く神の物語・説教篇 4～	
	大頭真一 (36)	24
『何度でも 何度でも愛 何度でも 愛』民数記	～焚き火を囲んで聴く神の物語・説教篇 5～	
	大頭真一 (36)	24
『あなたに よいことが 起こるために』	古泉 肇 (30)	24
□天在人語		
草野神父 馬場信次 (8)		25
□六甲学院六甲会解散のご挨拶	阿河伸一	26
□編集後記		26
□会員の皆様へ		27
□2022 年の「平成塾」について		28
□2022 年度総会・懇親会		表 3

・HAKUYUKAI・HAKUYUKAI・HAKUYUKAI・

会 長 挨 拶

・HAKUYUKAI・HAKUYUKAI・HAKUYUKAI・

いつも巻頭は会長の挨拶を掲載していましたが、今回会長と同期の31期の北野友之氏、倉光泰隆氏と会長と同業の弁護士50期の藤原唯人氏をゲストにお迎えし、広報委員会の宇都宮光（20期）、樋口隆之（39期）、藤枝誠（50期）が、藤本会長と座談会を行いました。藤本会長の人となりがうまく引き出せたかどうか。どうぞお楽しみ下さい。



伯友会会長
31期 藤本久俊

六甲時代

藤枝：本日はよろしくお願い致します。

まず六甲在学時代についてお聞きます。

倉光：文化祭の劇に出演していたけど、ステージクラフトにも所属していたの？

藤本会長：ステージクラフトには所属していなかったですけど、中学1年生の時と高校3年生の時に文化祭などの劇に出ました。いずれも役者が足りないから、「お前ちょっと出る」という感じでした。

中1の時は高1か高2の先輩に「ちょっとおいで」と言われ、高3の時は高2の後輩から「先輩出てください」と言われて出ました。劇の間中ずっと舞台にはいたのですが、台詞は「はい」の一言だけでした。

藤枝：それを機会に演劇をしようとは思われなかったのでしょうか？

藤本会長：全くないですね。嫌いではなかったですけども、私自身は自分が演じるとか人前に出るという事は一切考えませんでした。

藤枝：クラブ活動は？

藤本会長：倉光君と一緒に中1から一応剣道部でしたが、幽霊部員みたいなものです。高1の秋、新人戦に出ましたが、高2の時は他校の高3と試合をすることになるので、とても



藤本会長



藤本会長が在学していた頃の校舎

勝てる気がしません。ですので私は遠慮しとこうという気持ちで、土曜日は部練を回避するために三宮にあった200円で3本立てのビック映劇という映画館に通ってました。

樋口：剣道部になぜ入られたのですか？

藤本会長：特に理由はありません。中1の時のクラスの訓育指導員が剣道部だったので、必然的に私達のクラスの大半が剣道部に入ったという状況だったんです。

藤枝：当時の六甲の剣道部は、強くなかったのですか？

藤本会長：灘高との対抗戦だけは勝っていましたが、それ以外の試合で対外的に勝ったのは1回か2回くらいしか記憶ないですね。

藤枝：ビック映劇ではどんな映画をご覧になられていたのですか？

藤本会長：もっぱら洋画ですね。オードリー・ヘップバーンが好きでしたし、キャサリン・ロスも好きでした。といっても、若い方はご存じないでしょうね。大阪にあるOS劇場にも何回か倉光君と観に行きました。

倉光：旅行も一緒に行ったね。



倉光氏

藤本会長：高1の時だったかな。山陰の方を回って、奥西君の親戚の総社の家に行って、ボーリングして岡山から帰ってきたのを覚えています。

藤枝：青春18切符で行かれたのですか？

藤本会長：その頃まだ青春18切符はなかったです。私らが大学に入ってから青春18切符は出来たので。

藤枝：ご子息も六甲生だと伺いましたが、何期でいらっしゃいますか？

藤本会長：60期と63期です。

藤枝：息子さんを六甲へ行かせたのは、どういうお考えからですか？

藤本会長：「灘でも甲陽でも入れたのに敢えて六甲に行かせた」と言えば格好がいいのですが、そうは言えません。

我が家の子供は4人とも男の子で、どこでも好きなところへ行ったら良いと言ったら、長男と三男は他の私学へ、次男と四男が六甲、たまたまそうだったということです。

藤枝：六甲に行かせてよかったと思われていますか？

藤本会長：親としては、そう思っていますけど、本人がどう思ってるかは分かりません。まあ楽しんでたんじゃないだろうかと思っています。

藤枝：あと、登山もお好きだということですが、立山がきっかけですか？

藤本会長：立山がきっかけかどうか分かりませんが、私は人混みが苦手なもので山の中に一人でずっといるのが好きですね。

藤枝：会長をお受けになりました。在学中も世話役とかをされるタイプでしたか？

藤本会長：倉光君は勉強もできたし、品行方正で訓育委員をやってましたが、私は指導されることはあっても、指導するということはありませんでした。

藤枝：六甲に対しての思いはいかがですか。

藤本会長：大学よりも六甲のほうに帰属意識はあります。今の私の性格を作ったのは六甲だと思います。クリスチャンにはなりませんでしたが、訓育にも関わらなかったですが、六甲の素晴らしさは、骨の髄まで染み込んでいます。

藤枝：その染み込んでいるものについてもう少し教えていただけますか。

藤本会長：他者のために生きる、自分を捨ててでも他者のために生きるという方がいらっしゃるのをこの目で見たということです。つまり自己犠牲が出来る人がいたということです。

年を重ねるにつれ、私もそういう方のようにになりたいと思うようになりました。

藤枝：その自己犠牲が出来る人とは具体的にはどんな方でしょうか？

藤本会長：まずは神父さんです。自分の国を離れ、家族も持たず、知らない国の子供たちのために全てを捧げていらっしゃる。

若い方はご存じないでしょうけれど、ヒルケルさんとかメルシュさんは、ブラザーとして学校の設備をずっと作ってくださっていて、これはすごいことだになってというのがだんだん分かってきました。

訓育生の一部は、高2になったら、自分のことを投げ打って中1の面倒を見るというのもすごいことだと思います。

藤枝：在学中は訓育をやろうというのは思わなかったけども、後になってその人たちの自己犠牲の姿勢に感動したという事ですね。

藤本会長：そうですね。中学高校時代わからなかったですけど、大学から社会人になるにつれてどんどんわかってきたという感じで、自己犠牲の精神を貫ける方は偉いなあとずっと思っています。

大学時代

藤枝：倉光さんとともに東京大学に進学されたのですね。

藤本会長：はい。大学時代を語るとすれば、2つです。

まず第一は、県人寮に入ったこと。兵庫県出身で関東の大学に通う者は誰でも入寮できるのですが、ここで様々な地方から出てきて、様々な学校で学ぶ仲間と生活したことは、人間の幅を広げてくれました。

第二は、貧困地域での活動です。大学に入ってまず考えた事は、自分は、中学・高校は私立ですし、ボンボンで育って来てる。大学もこのままでいったら多分エリートとして進んでゆくことになるが、それは社会的には一般的なことではない。そういう環境にいるなら、余計に違う社会のことを知らないといけないし、困っている人のために尽くさなければいけないと思いました。六甲在学中も、西成で活動されている人とか、ハンセン病施設に行ったりしている先輩、同級生がいるのは知っていましたので、自分も大学だけでは過ごさず、世の中に積極的にかかわろうと思いました。それで、大学時代の半分ぐらいは貧困地域に行っていました。

その仲間の中には、そこに住み込んで法律相談に乗ったりしていたんですけど、私は住み込むまでは出来なかったです。週に何日か行って子供の面倒みたり、お父さんやお母さんの相談に乗ったりとかですね。そうした活動を通じ、ずいぶん現実を見た気がします。

大学の同級生には、そのような活動は偽善だという人もいましたが、六甲時代に当たり前のような自然さで他者に尽くす人がいるのを見て知っていましたので、私もそのようになりたいと思いました。大学の1年生から3年生の途中までは、そういう貧困地域とのかかわりにあけてくれたことになります。

藤枝：それはボランティアですね。

藤本会長：一般的な言葉でいったらボランティアですね。大

株式会社 マヤテック

〒650-0024 神戸市中央区海岸通5 商船三井ビル

代表取締役会長 五代友和 (15期)

TEL (078) 391-3721, FAX (078) 391-3927



宮野医療器株式会社

〒650-8677 神戸市中央区楠町5丁目4番8号

相談役 宮野 淳 (19期)

TEL (078) 371-2121, FAX (078) 371-2309, E-mail: a.miyano@miyano.co.jp
URL: <http://miyano.co.jp/>



藤原氏

学ではセツルメント活動といってました。セツルって居住するっていう意味ですから、本来はその地域に入り込んで居住するという活動です。ただ大学へ入った時は、所謂同和問題に取り組むつもりでした。

仕事について

藤原：裁判官になろうと思われた理由はなんですか。

藤本会長：貧困地域にかかわる活動をずっとやっていたので、官僚になるとか、企業に入るといふ選択肢は早くに消えました。

そういう中、先輩から、苦しい立場の人を知ったなら、そういう人の味方をする弁護士になるべきではないかと迫られました。しかし司法試験は難しいし、勉強はしんどいと思っていましたから、なかなか決心はつきませんでした。もう逃げられない、司法界に進むしかないと決心したのは、3年生の半ばです。その時は、弁護士になるつもりで、裁判官は視野にありませんでした。

藤原：大学在学中に司法試験に合格されたんですか。

藤本会長：留年はしましたが、一応在学中の合格にはなります。

受かった後、最初は当然弁護士になるつもりでしたが、司法修習の2年間に色々先輩を見て、弁護士だけでなく、裁判官としても出来る可能性があるということが分かってきて、悩みましたが任官したのは26歳の時で、そのあと6年ちょっと裁判官をしました。

藤枝：裁判官を辞めてすぐに芦屋で開業されたのですか。

藤本会長：最初は、大阪で勤務弁護士をしました。

藤原：なぜ6年で裁判官辞められたんですか。

藤本会長：私は6年周期で動く傾向があります。小学校に入る前、小学校、六甲、それぞれ6年、大学は4年で卒業するところを6年、なので裁判所もまた6年という感じですね。というのは、半分冗談です。

まじめに言うと、まず、裁判官を続ける根性がなかったっ

ていうのが一つ。次に、母親が亡くなり、おばあちゃんと父親が残ったというのが一つ。父親は、母が亡くなった後、毎日のように裁判所に電話をかけてきて、「俺はしんどい」とか話すんです。当時は大阪勤務でしたが、これでは転勤生活に耐えられないなあと思って、辞めることを考えました。そして、もう一つ。私は、最初、民事裁判官だったんですが、5年目に刑事を担当した時、ずいぶんと考えさせられました。裁判官は、懲役何年とか言って刑を言い渡すんですが、これは言い放しだなあ、ほんとにこれで関わってきた刑事被告人の更正に役立ってるんだらうかって問い返しがきました。というのも、私の父親は保護司をやっており、罪を犯した人が仮釈放で出てきたらその期間の面倒をみたり、問題行動を起こした少年の面倒をみるとかの活動をしていたんですね。中学高校時代から私の家にはそういう罪を犯した受刑者とか少年が来てたんです。それを思うと、裁判官として遠く離れたところから判決を言ってるだけの自分はどうかだろうと考えました。それで、母親の死を機に、また将来裁判所に戻ってくるかもしれないとは思いつつ、司法試験を受ける時の初志に戻って弁護士になりました。

藤原：勤務弁護士を経て芦屋で事務所を開設されましたよね。現場に来てどうでしたか。裁判官の時と比べて何かものの見方が変わったとかはありましたか。

藤本会長：ものの見方は変わりませんが、弁護士になってからは、直接刑事事件の被告人とかかわります。その中で、犯罪の多くは、貧困が原因であることを思い知らされました。彼らと接し、もう一度しっかり考えようと思うようになりました。

民事関係では、あまり会社の事件、大企業の事件を担当しようとは思いませんでした。むしろ、地域に出ようって思っていました。大阪勤務当時は裁判所の近くに弁護士事務所があったんですけど、裁判所周辺で弁護士事務所をする気は無く、裁判所から離れたところでやろうと思ってました。

独立は、神戸と大阪の中間の、芦屋だったんですが、芦屋でも、万引きしたお母さんとか、マンションが近所に立つんで住環境がどうなるんだらうかの相談に来る人とか、とにかく飛び込みでたくさん色々な人が相談に来られる。そういう方々と直に接したことは本当に勉強になったし、楽しかったです。今、法律家の数が多くなり過ぎて、弁護士になっても食べていけない人が増えていると聞きます。確かに、割のいい事件をやろうと思ったら、競争に割り込むことは難しいですが、世の中には助けを求めている人、弁護士にアクセス

みな かわ

南川和茂法律事務所

〒530-0047 大阪市北区西天満4丁目1番15号 西天満内藤ビル4階
弁護士 南川和茂 (23期)

TEL (06) 6365-0400, FAX (06) 6365-0455
E-mail: kaminakawa@nifty.com

株式会社 オオサワ

代表取締役 大澤裕信 (24期)



ポートアイランドゴルフ倶楽部

TEL (078) 303-5337, FAX (078) 303-5381

できない人がたくさんいらっしゃいます。私は、地域に出て、そのことを肌で感じました。

藤原：弁護士を10年位されてもう一度裁判官に任官されたんですね。

藤本会長：正確には勤務弁護士を6年した後、芦屋で弁護士事務所を構えました。

以前、弁護士事務所は法人化できませんでした。しかし、私は、当時弁護士の人数をもっと増やすべきだと思ってましたし、依頼者や職員のためには弁護士事務所は継続性を持たせるべきだと思ってました。そこで、法人化が認められると、その第1号で事務所を法人化しました。

丁度その頃に、裁判官がキャリアだけで構成されていいの、実際の社会を知っている者こそ裁判官になるべきじゃないか、弁護士経験者が裁判官になるべきだという運動が起こりました。けれども、弁護士は自由ですが、裁判所は役所の中ですから窮屈なところがあります。それに判決を書くというのはやはりある程度修練しないとイケないしんどい作業です。そんなこんなで、運動は起こったが、実際に弁護士から裁判官になろうっていう人がなかなかいなかった。

そんな中で日弁連とかいろんな弁護士会の方から、「藤本会長、事務所を法人化したなら自由だろ、もう一度裁判所に行かへんか」という声がかかりました。幸い、裁判所も来ていいよっていうことだったので、もう一度裁判官になったという感じです。

藤原：いつ頃でしたか。

藤本会長：2002年の8月です。2002年4月から弁護士事務所の法人化が認められるようになって、4月にすぐ事務所の法人化をして8月に私が出ていきました。

藤原：またしばらく裁判官をされてた。

藤本会長：これも6年。

藤原：それは人生6年周期ということですね。(笑)

その6年間は法廷で裁判官されてたっていうことですか。その時も民事も刑事もされましたか。

藤本会長：この時は民事だけです。

藤原：2回目の裁判官任官は1回目と比べてどうでしたか。

藤本会長：私にしてみれば変わるところはありません。

藤原：弁護士としての経験が役立ちましたか。

藤本会長：大いに役立ちました。まず裁判官についていうと、一般的には裁判官は世間知らずって言われるんですけど、私はそんな事はないと思ってらるんですね。弁護士は深くものを考えますがどうしても依頼者層が固定してくる。

それでやる案件もある程度専門的なものになってくる。

それに比べると裁判所にはあらゆる階層の人達が世の中に起こるあらゆる種類の紛争を持ち込みます。裁判官はそれを選ぶことができません。しかも、弁護士が担当できる案件は20~30件がせいぜいだろうと思いますけれども裁判官は常時200~300の案件を持ちます。これだけたくさん案件を真面目に見ていたら世間知らずにはならないだろうと思いますね。

弁護士の方々は一生懸命活動しますから、裁判官である自分の知らない視点も教えていただける。そのことに心を打たれ、この案件はこう解決するべきだと真剣に考える機会が持てるので裁判所は良いところだと思っています。

弁護士は裁判官に比べると件数は少ないです。だから私は裁判所を終わって弁護士になったときには、依頼人がこういう案件ですと言っても、もっと違う見方があるはずだ、今までの経験からするとこんな書類もあるはずだ、こんな証拠もあるはずだというふうに考えて、実際に出てきたりとか、ものの見方もすることができました。これは、裁判官の経験が弁護士業に生きた点です。

しかし、裁判所では当事者と直接接することはありません。弁護士の方々が聞きとった話を伝え聞くだけです。

私は、裁判官を辞め、弁護士になることにより、直接当事者と接することができるようになりました。直接のお話は、裁判官時代に聞いたお話よりずっと重く響きますし、心に食い込みます。再度裁判官に戻ったときは、弁護士として直接聞いた声を、最初に裁判官になったときより重く受け止めることが出来たようになったと思います。

弁護士の苦労がよくわかる、現場のことも多少はわかる、それだけにしっかり受け止めないといけないという気持ちが深まったことが弁護士経験が生きた点だと思います。

藤原：ありがとうございます。少し補足しますと弁護士から裁判官に任官するとか裁判官を辞めて弁護士になる人はしばしばいますが、これを藤本会長のように往復した人というのは私は藤本会長しか知らないくらい少ない。

元の法人には戻らずにまた新たに事務所を開業されましたね。何か思いがあったんですか。

藤本会長：いや特には無いですけど、あちらはあちらでどんどん新しい体制で走ってますから、そこに古手がいって大きな顔するような事はしたらいかなと思ってましたし、隠居するにはちょっと早いかなあって思いました。

大阪、芦屋を経て最後は地元神戸の2系統のバス沿いか、

非鉄金属

ワイメタル株式会社

〒675-1122 兵庫県加古郡稲美町中村 1216

代表取締役 **横山幹夫** (24期)
横山央祐 (49期)

TEL (079) 492-7314, FAX (079) 492-6599

**三輝工業株式会社**

〒555-0043 大阪市西淀川区大野 1 丁目 5-12

濱田誠剛 (27期)

本社・工場 TEL (06) 6475-5156(代), FAX (06) 6475-5406

春日野道の近所でまた地域に戻ってもいいんじゃないのかなっていう気持ちがありました。

藤原：2008年から今に至る2回目の弁護士生活は1回目と比べて仕事の内容とか、依頼者とか何か変化がありましたか。

藤本会長：自分が年取ったなあっていう面はありますけれど、それ以外大きな変化はないですね。

藤原：藤本会長の事務所は神戸では一番高い事務所と言われてまして、費用が高いんじゃないくて標高が高い。ビルの28階という高いところにあるんですよ。新神戸駅前の高級賃貸の1室なんですけれども事務所の中がすごく綺麗です。掃除が行き届き小綺麗っていうだけではなくて書類とかが見当たらないんです。

我々の事務所っていうのは机の上に書類やらなんやらが積み上がっているんですけど、はじめて藤本会長の事務所へ行った時はまだ仕事始めてないのかなあとと思った位片付いてる事務所なんです。

それは雑然としたところでは仕事をしたくないというようなポリシーとかをお持ちなんですか。

藤本会長：事務所は依頼者が自分の人生を考える場だと思っています。そこでいろんなことを考えて、決断したり、判断したりということがあるわけですから、礼を持って迎えようっていう気持ちがあります。それは時間を守ることや、掃除をきちんとするということも含みます。初めての依頼者が緊張して来られるときには、なるべく柔らかい色の服を着て喋りやすい雰囲気を作るとか、今日はしっかり彼あるいは彼女に対して物申さなければいけないというときにはきちっとした服を着るという事は必要なあつて思っていて、その中のひとつの要素として、事務所や玄関を綺麗にするとか、お客さんや依頼者の入ってこられる所は柔らかくないといけないけれど、きちっとした雰囲気を作るとかは考えています。その延長として自分の身の回りも綺麗にしようという発想はあります。

藤原：ありがとうございます。私も明日からきちっとします。

プライベートについて

藤枝：話は変わりますがお酒を1年に365日飲まれると聞いたんですけど。

藤本会長：いいえ。12月に大体1日開けますので毎日ではありません。ただ、360日は完全に超えてると思います。

藤枝：どういったお酒を飲まれますか。

藤本会長：何が好きってことはないですけど、味噌以外は一応たしなむことにしています。

北野：ワイン好きですね。すごく好きだけでも特別強いという事はなくて我が家で飲んだ時も途中から寝てたり、先日もフラフラしてビンを1本割って奥さんに叱られてというようなことで、ご機嫌なお酒と一緒に飲んでいてもすごく楽しいお酒ですね。日本酒も好きですね。

ゴルフへ一緒に行くんですけどね。お昼ご飯のときに私はよく生ビールを注文しますが、彼は瓶ビールなんです。それは瓶ビールにこだわりがあるんじゃないくて、生ビールも瓶ビールも値段は大体一緒なのに生ビールは量が少ない、瓶ビールは中瓶で500mlあるが、生ビールは300mlか350mlくらいしか入っていない。ということでその量に非常にこだわりがありましてゴルフ場では瓶ビール。それにつられて私も瓶ビール派になりました。

藤原：藤本会長はお酒が好きっていうだけじゃなくて、馴染みのお店を非常にたくさんお持ちっていう印象なんですね。馴染みのお店を持つのは何かお考えがあるのでしょうか。

藤本会長：馴染みになってるかどうか判りませんが、私は職人が好きなんですね。自分も弁護士として職人だと思っています。何か料理してる人に共通するものを感じるところがあります。料理人の方でも、こちらに共通するものを感じてくれるみたいで話が合うことが多いです。だから大きなお店っていうよりご主人が料理をしておられるお店のなじみになることが多いような気がします。

藤原：お洒落で美味しい、確かに小さいけれども个性的なお店っていうのをたくさんご存知で、ご紹介いただいたことがあります。

藤枝：貴船とか祇園も守備範囲ですか？

藤本会長：いいえ、京都では雲ヶ畑です。鴨川の源流なんです。ここの床料理はいいですね。

北野：私が一緒に行った時は鮎の時ではなく猪鍋でした。ほんと京都の奥座敷っていうかな。なかなか行く機会がない



北野氏

弁護士法人 アーネスト法律事務所

〒651-0055 神戸市中央区熊内橋通7-1-13
神戸芸術センター 2803号

弁護士 藤本久俊 (31期)

TEL (078) 265-0810 FAX (078) 977-8065

株式会社 ハヤシホレイ

〒661-0021 尼崎市名神町2丁目10-15

代表取締役 林 敬一 (31期)

TEL (06) 6429-7661

人がほとんどじゃないですかね。まして神戸からは。

藤本会長：祇園はそんなに行ってませんよ。京都でいうと高2のときかなあ。倉光君たちと2〜3人で宇治にある黄檗山萬福寺っていうお寺へ行きました。

私は涼みに行ったつもりだったんですよ。座禅くらいはするのかなと思ってましたが、大間違いでした。着いたら早々から、お坊さんのトイレの掃除とか庭掃除とかをさせられ、ここは六甲と同じじゃないかと思った覚えがあります。でもまあその頃から目覚めて京都や奈良のお寺はかなり回ってます。

宇都宮：黄檗山萬福寺へは有名な料理を食べに行かれたのかと思ったんですが。

藤本会長：普茶料理も食べましたね。

倉光：ホントに素朴な普茶料理をいただきました。

宇都宮：かなり高価ですよ。

倉光：いやお坊さんが食べるようなものしか出ないのでタダです。便所掃除やったんでタダ。いきなり行って説明も受けずに座禅やらされました。動いてはいけないことを知らずに蚊が飛んできたのでピシャリとやったらお前ら何してるっていきなりどつかれました。

藤枝：旅行がお好きということで東海道巡りとかもされましたか。

藤本会長：アホですから東海道は全部歩きました。中山道も全部。長崎街道は全部走りました。1日30キロずつ走ったら一週間位で行けちゃいますから。

藤枝：すごいすごい。それは何歳位の頃でしょうか。

藤本会長：九州で裁判官してた時ですから50歳ちょっと前くらいですかね。

藤枝：海外へもよく出かけられると伺いましたが。どの辺りですか。

藤本会長：ヨーロッパへ行ってます。私はちょっと変人なのか、あんまり人の行かないような所に行ってます。フランスとかイタリアでも村に行くんです。小さな村ってのはほんとに面白い。

藤枝：そこで地元溶け込んだような旅行をするっていう事ですか。

藤本会長：そうですね。人種も違うし文化も違いますから溶け込めきれませんけれども何日も居たら日常を完全に離れることは出来ますねえ。

宇都宮：小さな村へ行くのには何かテーマを持ってるわけですか？

藤本会長：村に行くのにテーマはありません。ただこだわりがあります。『モンテ・クリスト伯』という小説があります。『巖窟王』という邦題です。私はこれのフリークなんでこの小説のとおり動こうと思ってました。主人公はマルセイユ生まれですから、マルセイユからヨーロッパの旅行は始まりました。マルセイユの前の島の牢獄に閉じ込められてたから、そこの牢獄に行くとか。地中海にモンテクリスト島っていう無人島があり、そこで財を発見するんでそのモンテクリスト島に行くとか、劇中の場面やシーンの順番に歩くということをして2〜3年かけてやりました。

藤枝：ゴルフ、スキー、体操もされるとか。

藤本会長：いやいやそんな何もできません。中3の時、スキー合宿がありました。その時それに申し込もうと思って、親から申込金もらって学校に行ったら、隣の席の友人が「寒いところでなくそのお金で温かいところへ行こうぜ」と四国旅行に変わってしまったんです。それでスキーをやり損ねてしまいました。

宇都宮：でも伯友会のスキー同好会に来てましたね。スキーのことは全然覚えてないのに藤本会長が風呂敷を持ってきたということだけが記憶にあります。

北野：ゴルフの時もいつも風呂敷で着替えを持ってきたるよね。

藤本会長：こだわりはないんですけど風呂敷って変幻自在でしょ。大きなものも小さなものも包める。

宇都宮：裁判官の人が書類をくるんでいるのをテレビで見たことがあります、それでかなと思ったけど六甲の影響もあるのですか。

藤本会長：私達が六甲に入った頃はちょうど風呂敷からカバンに変わった頃だったんですけども、裁判所もかつては大きな記録も小さな記録もあるんでそれを変幻自在に包むには風呂敷ってことで裁判官時代も風呂敷でした。ただ、こちら、私達が任官した頃からはちょうど風呂敷が終わったような時代ではあります。その影響っていうのは何とはなしにあると思います。

藤枝：でちょっと失礼な事お聞きしますが、器用なタイプではないとお聞きしたんですけれども。

藤本会長：不器用かもしれないですね。真っ直ぐには生きようと思っただけ思ってます。

六甲伯友会について

藤枝：最後に伯友会のことをお聞きします。石光前会長や横

井尻整形外科

JR 垂水駅北、レバンテ垂水1 番館2階

院長 井尻慎一郎 (32期)

TEL (078) 704-5055, FAX (078) 704-5066, URL. <http://ijiri.jp>



やまだ整形外科クリニック

〒651-0065 神戸市中央区割塚通7丁目2-1 コンフォート春日野2階

院長 山田 博 (32期)

TEL (078) 262-6780, FAX (078) 262-6786

山前副会長と深く関わっておられたとか。

藤本会長：深く関わっていたかどうか分かりません。石光会長の任期の最後の方は、「次期会長」になれという雰囲気を感じてましたので、むしろなるべく逃げるようにしていました。

藤枝：それでもやっぱり結構オファーが強かったんですか？

藤本会長：自分から手をあげるという気はありません。伯友会を見てましたら、若い方々、特に最近では、50期の人達が一生懸命自分たちの学校、自分たちの同窓会を盛り上げようと頑張ってくださいますから、邪魔せんように少しでもお手伝いできたという気持ちでいます。

藤枝：伯友会と六甲学院との関わりや会長として、こうしたいとか、もっとこっちの方向に持っていきたいとかそういうお気持ちはありますか。

藤本会長：伯友会は、これまでもよい方向で進んできていると思います。こうやって皆さんが親睦することは良いことだし、学校を応援する事は良いことだと思ってます。ですので、そのままの方向で行ったらい、その流れがさらに大きくなったら尚良いと思っています。ただ、学校と伯友会とは立場が違います。同窓会は、応援するサポーターです。その立場は守るべきだし、分は外したらいかんという気持ちは持ってます。

藤枝：伯友会の方向性っていうのは今おっしゃった学校を応援するサポートする方向を維持する感じなんですね。

藤本会長：学校との関係という意味ではそうじゃないでしょうか。団体独自の方向性としては、会員相互の親睦っていうのが常にあると思います。期を問わず交流する中で人脈ができ、お互い活用し合いながら成長するのに役だったらいいな、インスパイアする場になったらいいなと思います。

藤枝：ここは変えたいなとかはないですか。

藤本会長：なかなかそういう根性は持ち合わせてはおりません。

藤原：伯友会でもっともっと若い世代が参加するようになる工夫などありますか。

藤本会長：私はもうロートルですから、私が考えつくようなことで若い方の参加が増えるとは思いません。私どもではなく、若い人達の少し上の世代の人達が元気に活動してらっしゃるのを見ることによって、その少し上の世代の人が、伯友会活動を通じ成長していく姿を見ることによって、次の新しい世代が加わることで伸びていくんじゃないのかと思います。そういう意味でいうと、50期の方々とかそれよりさらに若い方々に期待をする、元気にやってほしいと思います。私達ロートルの仕事は、そういった人達が活動できるような基盤づくりをすることにあるという気持ちです。

藤原：はい。うまい具合にお鉢を回されました。

藤枝：藤本会長はじめご出席の皆様、長時間ありがとうございました。

伯友会の歴史を残す活動について

神戸市の灘区伯母野山に六甲学院が開設され、第1期生が入学したのが1938年でした。爾来今日まで80年にわたる年月の中で、1万人を優に超える人々が母校を巣立っていきました。

思い出に残る学生生活そして卒業後の同窓会の活動の歴史を記録に残し、後世に伝えていくために「伯友会の歴史を残す活動」をスタートさせました。このたび六甲学院のご協力を得て学校所蔵の校誌他の資料を伯友会ホームページ上に掲載することにいたしましたのでご覧ください。

俳句を軸とした文芸誌「沖ゆくらくだ」
季刊で発行中。1部700円

(株)学術出版印刷

〒554-0022 大阪市此花区春日出中2-14-9

代表取締役 **近藤 健** (32期)

TEL (06) 6466-1588, FAX (06) 6463-2522, E-mail: kondou@mxt.mesh.ne.jp

有限会社
アークスコーベ
一級建築士事務所

32期

石丸 信明

〒530-0041 大阪市北区天神橋2-2-23 アークスビル

Tel 06-6136-1070 Fax 06-6136-1071

ishimaru@arxkobe.com https://arxkobe.com

会 務 報 告

今年も新型コロナウイルスの感染の影響で、総会の会場開催が出来ませんでした。総会議案は事前に伯友会のホームページ上に掲載し、広く会員の意見を求めました。また総会当日は ZOOM 会議とし、森本総務委員長より各議案の説明がなされ、参加会員の承認を得ました。

第 1 号議案 2020年度事業報告

● 2020 年度末総会員数および終身会員数

	総会員数	終身会費納入者数	末梢者数	終身会員数	年会費納入者数
2020 年度末	11,287 人	6,863 人	412 人	6,451 人	133 人
		新規 199 人			延べ 194 人
2019 年度末	11,195 人	6,664 人	382 人	6,282 人	99 人
		新規 200 人			延べ 124 人
増減	92 人	199 人	30 人	169 人	△ 14 人
		新規 1 人			延べ 70 人

● 総務委員会

① 定時総会 コロナウイルス拡大の影響により中止
(総会に代えて幹事による郵送議案審議を実施)

② 会議運営・資料作成・議事録作成

幹事会 年 4 回開催 2020 年 4/ 4(土)* 7/11(土)** 10/17(土)**
2021 年 1/18(土)

常任幹事会年 4 回開催 2020 年 6/27(土) 9/26(土) 12/ 5(土)
2021 年 3/20(土)*

上記日程にて幹事会、常任幹事会を開催

* コロナウイルス感染拡大の影響により書面報告のみの実施

** コロナウイルス感染拡大の影響により開催中止

③ 会費の徴収

終身会費納入者 199 人(前年比 1 人増) 昨年 200 人

年会費納入者 113 人(前年比 14 人減) 昨年 99 人

④ 本会計・伯友基金・伯友奨学基金・伯友チャレンジ基金の管理

● 財政検討特別委員会 (2020 年度開催なし)

① 財政状況のモニタリング

② 収支バランスの継続的検討

● 事業委員会

① 学校事業への協力

・ 伯友文庫の充実

・ 体育祭：中止

・ バザー：中止

・ OB 課外講義：中止

・ 強歩会：中止

・ 卒業式：卒業生への記念キーホルダー授与 (2021 年 2 月 6 日)

② 対外事業

・ 四校対抗サッカー大会：中止

・ イエズス会校同窓会連絡協議会：第 37 回会議 オンラインで実施

(2020 年 12 月 20 日)

③ 伯友奨学基金運営

・ 基金の PR

④ 東ティモールへの支援

・ 募金の呼びかけ

⑤ 伯友会の歴史を記録する活動 (広報委員会との共同作業)

・ 六甲学院別館所蔵資料の整理

● 広報委員会

① 会誌「伯友」76 号 (春号)、「伯友」77 号 (秋号) 発刊

② ホームページ、メールの維持管理

・ ウェブサーバ (アマゾンウェブサービス)

ネームサーバ、メールサーバ (Google)、

SSL 証明書、

ドメイン (hakuyu.jp)

・ ホームページ随時更新

③ 「伯友会活動のあらまし」78 期生に配布

● 会員委員会

① 総会懇親会実施

コロナウイルス拡大の影響により中止

② 支部支援

関東支部、中部支部ともに懇親会は中止

③ 各期同窓会支援

いずれの期も中止

④ 伯友会ジュニア (50 歳以下の会員対象) 開催

すべて中止

⑤ 78 期の情報収集

⑥ 会員名簿の発行準備

* 【参考】 関東支部活動

① 第 1 回令和塾実施

2020 年 9 月 15 日（火）に実施。

19 期 五百旗頭 真氏と 49 期 五百旗頭 薫氏を講師に招いて実施した。

参加者は、19 期 五百旗頭先生の従来の勉強会の参加者と神戸大学時代の生徒の方を中心に、学外を含めて 77 名だった。

② 第 2 回令和塾実施

2020 年 12 月 1 日（火）に実施。30 名参加。

③ 第 3 回令和塾実施

2021 年 3 月 19 日（金）に実施。28 名参加。

④ 四校連絡会

2020 年 12 月 10 日（木）に実施。

各校近況交換

栄光学園は活動不活性化の予算をビデオ撮影に投資
上智福岡は ZOOM 勉強会（13 名、日曜日夜）

広島学院は活動無し

● 情報管理委員会

① 事務局 IT 機器の管理

② 常任幹事会・幹事会のリモート参加の本格実施

第 2 号議案 2020 年度収支決算報告

● 本会計

2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日

(単位:円)

	決算額	予算額	差異
収入の部			
① 会費収入	9,552,000	7,950,000	1,602,000
・年会費	582,000	300,000	282,000
・終身会費当期納入額(199人) ※1	8,970,000	7,650,000	1,320,000
② 入会金	24,000	0	24,000
・新入会員入会金(3人)	24,000	0	24,000
③ 雑収入	21,528	5,500	16,028
・預金利息	28	500	△ 472
・雑収入	1,500	5,000	△ 3,500
・寄付収入	20,000	0	20,000
・預り金	0	0	0
④ 名簿・広報誌制作協力費(広告収入等)	1,978,500	270,000	1,708,500
・名簿広告収入	1,868,000	0	1,868,000
・名簿販売収入	3,500	120,000	△ 116,500
・広報誌広告収入	105,000	150,000	△ 45,000
⑤ 繰越金からの特別繰入金	0	708,500	△ 708,500
当期収入合計	11,574,028	8,934,000	2,640,028

※1 終身会費当期納入者；新卒生等161人、61～76期 5人、51～60期14人、41～50期 5人、31～40期 8人、21～30期 3人、1～20期 3人

財産目録

2021 年 3 月 31 日現在

(単位:円)

	当年度	前年度	増減
合計	50,215,403	45,428,037	4,787,366
・現金	119,388	74,369	
・郵便局 (会費納入受入口座)	23,628,089	21,830,674	
・普通預金/六甲伯友会 (会費納入受入口座)	7,731,000	7,695,000	
・普通預金/決済用普通預金	17,063,883	14,868,883	
・普通預金/伯友会3	1,673,043	959,111	

(単位:円)

	決算額	予算額	差異
支出の部			
① 一般管理費	3,439,817	4,090,000	△ 650,183
・通信費	888,271	1,100,000	△ 211,729
・事務局員報酬	1,744,460	2,000,000	△ 255,540
・事務用品費	615,846	624,000	△ 8,154
・事務局警備費	105,600	106,000	△ 400
・慶弔費	7,760	30,000	△ 22,240
・交通費	0	150,000	△ 150,000
・プロバイダー使用料	77,880	80,000	△ 2,120
② 事業費	3,346,845	4,344,000	△ 997,155
・ 総務委員会	77,110	300,000	△ 222,890
・会議費	77,110	300,000	△ 222,890
・ 事業委員会	359,040	598,000	△ 238,960
・学校事業協力費	0	115,000	△ 115,000
・記念品制作費	259,160	340,000	△ 80,840
・対外事業費	0	43,000	△ 43,000
・伯友会の歴史を残す活動	99,880	100,000	△ 120
・ 広報委員会	2,324,054	2,185,000	139,054
・広報誌作成費	906,840	850,000	56,840
・広報誌発送費	1,083,591	980,000	103,591
・インターネット維持費	286,103	300,000	△ 13,897
・伯友会活動のあらし制作費	47,520	55,000	△ 7,480
・ 会員委員会	498,641	1,061,000	△ 562,359
・調査費	0	10,000	△ 10,000
・名簿作成費	0	20,000	△ 20,000
・名簿発送費	7,750	21,000	△ 13,250
・会員交流事業費	123,860	500,000	△ 376,140
・同期会援助費	17,031	80,000	△ 62,969
・支部援助費	350,000	380,000	△ 30,000
・懇親会参加促進費	0	0	0
・伯友会ジュニア促進費	0	50,000	△ 50,000
・ 情報管理委員会	88,000	200,000	△ 112,000
・システム保守費	88,000	200,000	△ 112,000
③ 予備費	0	500,000	△ 500,000
・予備費	0	500,000	△ 500,000
当期支出合計	6,786,662	8,934,000	△ 2,147,338
④ 繰越金	4,787,366	0	4,787,366

伯友基金口座在高

2021年3月31日現在
(単位:円)

普通預金 三井住友/六甲	金額
前年度繰越金	2,999,934
寄付収入	95,500
預金利息	25
六甲学院へ支払い	1,800,000
	100,000

※プロジェクター代支援
※東ティモール聖イグナチオ学院援助

伯友奨学基金口座在高

2021年3月31日現在
(単位:円)

普通預金 三井住友/六甲	金額
前年度繰越金	5,948,437
六甲伯友会からの繰入	0
寄付収入	838,000
預金利息	55
六甲学院へ支払い	460,800

伯友チャレンジ基金口座在高

2021年3月31日現在
(単位:円)

普通預金 三井住友/六甲	金額
前年度繰越金	1,000,002
六甲伯友会からの繰入	0
寄付収入	0
預金利息	0
支払い	0

第3号議案 2021年度事業計画

●総務委員会

- ①定時総会 2021年4月24日(土) WEBにて開催
- ②会議運営・資料作成・議事録作成
幹事会 年4回開催 2021年4/3(土) 7/10(土) 10/16(土)
2022年 1/15(土)
常任幹事会年4回開催 2021年 6/26(土) 9/25(土) 12/ 3(金)
2022年 3/26(土)
上記日程にて幹事会、常任幹事会を開催予定。
- ③会費の徴収
- ④本会計・伯友基金・伯友奨学基金・伯友チャレンジ基金の管理
- ⑤インターネットによる会議参加を意識した会議進行の検討。

●財政検討特別委員会 (必要に応じて開催)

- ①財政状況のモニタリング
- ②収支バランスの継続的検討

●事業委員会

- ①学校事業への協力
 - ・伯友文庫の充実
 - ・OB 課外講義の実施 (年1回)
第13回実施(2019年10月25日)後、見送りとなっており、別途、学校と調整が必要。
 - ・体育祭: 運営スタッフの活動支援、卒業生交流の場の検討など
 - ・強歩会: 成績優秀者へのメダル・トロフィー授与

- ・卒業式: 卒業生への記念キーホルダー授与

②対外事業

- ・イエズス会校同窓会連絡協議会: 第38回会議
於 上智大学
- ・四校対抗サッカー大会: 於 六甲学院

③伯友奨学基金運営明

- ・基金のPR

④東ティモールへの支援

- ・募金の呼びかけ

⑤伯友会の歴史を記録する活動 (広報委員会との共同作業)

- ・伯友会の過去の資料整理・DX 化

●広報委員会

- ① 会誌伯友 78号 (春号)、79号 (秋号) 発刊予定。
- ② ホームページ、メールの維持管理
Web サーバ、ドメイン、メールサーバ、SSL 証明書 等の維持管理、更新
- ③「同窓会活動のあらまし」発行 (200部)、79期生に配布
- ④クラシファイド広告の実施
伯友 WEB サイトにお仕事などの情報を掲載してもらうことで「六甲繋がり」を閲覧者に提供するのが目的 (情報提供なので広告費はいただかない)
- ⑤伯友会の歴史を記録する活動 (事業委員会との共同作業)
・伯友会の過去の資料整理、保存

●会員委員会

- ①総会懇親会実施支援
- ②支部活動支援
- ③各期同窓会支援
- ④伯友会ジュニア活動支援
- ⑤79期の情報収集
- ⑥次期会員名簿作成に向けての準備作業

●情報管理委員会

- ①事務局 IT 機器及び ZOOM アカウントの管理
- ②幹事会等のインターネット会議のための設備充実常任幹事会、幹事会をインターネット会議で開催し、リモート参加できるようにするための設備を充実させる。

第4号議案 2021年度収支予算

●本会計

2021年4月1日～2022年3月31日
(単位:円)

	予算額(A)	2020年度		増減 (A)-(B)
		決算額	予算額(B)	
収入の部				
①会費収入	7,950,000	9,552,000	7,950,000	0
・年会費	300,000	582,000	300,000	0
・終身会費当期納入額	7,650,000	8,970,000	7,650,000	0
②入会金	0	24,000	0	0
・新会員入会金	0	24,000	0	0
③雑収入	2,000	21,528	5,500	△ 3,500
・預金利息	500	28	500	0
・雑収入	1,500	1,500	5,000	△ 3,500
・寄付収入	0	20,000	0	0
・預り金	0	0	0	0
④名簿・広報誌制作協力費(広告収入等)	230,000	1,976,500	270,000	△ 40,000
・名簿広告収入	0	1,868,000	0	0
・名簿販売収入	140,000	3,500	120,000	20,000
・広報誌広告収入	90,000	105,000	150,000	△ 60,000
⑤繰越金からの特別繰入金	873,000	0	708,500	164,500
当期収入合計	9,055,000	11,574,028	8,934,000	121,000

(単位:円)

	予算額(A)	2020年度		増減 (A)-(B)
		決算額	予算額(B)	
支出の部				
①一般管理費	3,928,000	3,439,817	4,090,000	△ 164,000
・通信費	1,100,000	888,271	1,100,000	0
・事務局員報酬	2,000,000	1,744,460	2,000,000	0
・事務用品費	460,000	615,846	624,000	△ 164,000
・事務局警備費	106,000	105,600	106,000	0
・慶弔費	30,000	7,760	30,000	0
・交通費	150,000	0	150,000	0
・プロバイダー使用料	80,000	77,880	80,000	0
②事業費	4,629,000	3,346,845	4,344,000	285,000
・ 総務委員会	300,000	77,110	300,000	0
・会議費	300,000	77,110	300,000	0
・ 事業委員会	533,000	359,040	598,000	△ 65,000
・学校事業協力費	120,000	0	115,000	5,000
・記念品制作費	340,000	259,160	340,000	0
・対外事業費	43,000	0	43,000	0
・伯友会の歴史を残す活動	30,000	99,880	100,000	△ 70,000
・ 広報委員会	2,305,000	2,324,054	2,185,000	120,000
・広報誌作成費	870,000	906,840	850,000	20,000
・広報誌発送費	1,080,000	1,083,591	980,000	100,000
・インターネット維持費	300,000	286,103	300,000	0
・伯友会活動のあらまし制作費	55,000	47,520	55,000	0
・ 会員委員会	1,241,000	498,641	1,061,000	180,000
・調査費	10,000	0	10,000	0
・名簿作成費	200,000	0	20,000	180,000
・名簿発送費	21,000	7,750	21,000	0
・会員交流事業費	500,000	123,860	500,000	0
・同期会援助費	80,000	17,031	80,000	0
・支部援助費	380,000	350,000	380,000	0
・懇親会参加促進費	0	0	0	0
・伯友会ジュニア促進費	50,000	0	50,000	0
・ 情報管理委員会	250,000	88,000	200,000	50,000
・システム保守費	250,000	88,000	200,000	50,000
③予備費	500,000	0	500,000	0
・予備費	500,000	0	500,000	0
当期支出合計	9,055,000	6,786,862	8,934,000	121,000
④繰越金	0	4,787,366	0	0

先生を訪ねて

この欄では、六甲の先生を訪ねて、インタビューを通してその先生のご活躍をご紹介します。

今回は、古泉校長先生の後を引き継いで今年4月より六甲学院の新校長に就任されました高橋純雄校長先生にお話を伺いました。

ファイル No.	20026
氏 名	高橋純雄（たかはしすみお）
出 身	1958 年 神奈川県生れ 3 人兄弟の次男 1978 年 上智大学入学 1982 年 英文科卒業 1984 年 国文科卒業 同 年 六甲学院に奉職 2021 年 校長就任
担当教科	校長（専門教科は国語科と宗教科）



ご出身・家族構成・経歴などの自己紹介をお願いします。

高橋：神奈川県出身です。両親、祖母、三人兄弟の6人家族で次男として育ちました。高校までは公立学校で学びました。1978年に上智大学に入学し、1982年に文学部英文学科、1984年に国文学科を卒業しました。1990年に結婚、19歳から30歳までの5人の女子の父親です。

中学高校時代はどのような生活をされ、どのような夢をお持ちでしたか。

高橋：多くの人の前に立つのは苦手だったのですが、なぜか教師になることへの憧れが中学・高校時代にはありました。組織の中で定められた仕事や業績を求められる仕事をするよりも、自分の創意工夫が生かされる人間相手の仕事がしたいと思っていて、漠然と自分は会社勤めよりも学校勤めの方が向いているのではないかと考えていました。部活動は中学時代に軟式テニス、高校時代は剣道をしていました。

教師となることに憧れるきっかけにもなった、今でもモデルにしている中高時代の授業があります。

中学時代の社会の先生は、グループ活動を中心に時事問題なども取り上げて、生徒が考えを深めていく授業をさせていました。人の意見を聴きながら自分の考えを組み立てていくという体験ができて、大変知的な刺激に満ちた授業でした。

また、高校時代の倫理の先生の、授業の始めに一人一人の

生徒が自分の考えをスピーチとして話す時間を持ちながら、世界の思想の歴史から現代の様々な課題まで語って下さった授業も、興味深い授業として心に残っています。

そういう授業の中で自分の授業テーマと共に生徒同士の対話やスピーチを通して物事を考えさせるような、そしてご自身の生き様にもじみ出てくるような授業をしてこられた先生方が、今でも自分の教師モデルになっています。

どうして国語の教職を選ばれたのですか。

高橋：学生時代はいくつかのサークル活動をしていたのですが、英文学科内の英詩研究会もその一つでした。毎週一編の詩を10人ほどのメンバーで読み合い解釈を分かち合うことで、一人で読むよりも読みが深まってゆく面白味を知りました。また、上智大学には、一般教養や様々なサークル活動でも互いの考えや感想を分かち合う文化があって、人の意見を聞くことで自分の考えが深まることを体験として知りました。中学・高校の教師となるならば、生徒同士で作品の解釈や考えを深め合う授業をしたいと思いました。それならば教える教科としては国語の方が相応しいのではないかと考えて、英文学科卒業後に国文学科に学士入学をして国語科の教員免許を取り、国語の教師になりました。

職場として六甲学院を選ばれたのはどのようなご縁からでしょうか。

高橋：私は高校まで公立学校で、大学で初めて基督教の精神に触れることになったため、基督教への違和感もありつつ新鮮にその魅力を感じることもできました。学生時代はベトナムからのボートピープルや、カンボジア内戦からタイへ逃れる人々など、インドシナ地域の難民が世界では大きな問題となっていた時代でした。基督教のサークルとともに、そうした人々への募金や写真パネル展示や講演会等の活動をしているうちに、基督教の信仰に接する機会があり、1982年、最初の学部を卒業したすぐ後の4月に洗礼を受けました。上智大学と同じ基督教精神を土台にしたイエズス会学校の教員になればと願っていました。

洗礼を受けて下さった神父様が上智でアメリカ文学を教えられる前に、六甲学院で英語科の教鞭を取られていたり、黙想会を指導して下さっていたシスターがかつて六甲教会で活動をされていたりしていたこともあって（当時の生徒たちは六甲教会にもよく通っていて）、六甲学院やそこに通う生徒たちのことを自然に聞く機会がありました。電車の中では席を立つこと、家庭では毎日何か一つは手伝いをするなど、厳しい一方で人間的なその教育を聴いていて、赴任する前からその印象は大変よかったと思います。

六甲学院と六甲生の印象はいかがでしたでしょうか？（いい点・悪い点・成長して欲しい点など）

高橋：40年近く前、赴任するまでに持っていた六甲生のイメージは、「凛としている」（自分を律する品格があって礼儀正しく紳士的）ということでした。これは赴任してからの印象としてもそれほど変わることなく、今に至るまで受け継が

れているように思います。中学までは多少やんちゃでも卒業が間近になるにしたがって、また卒業後に学校にやって来る時の姿に接すると、六甲という環境の中で培われてきた「凛とした品格」を身に着けた人物は今でも多いと感じます。

また、自分の過ごした公立の中高と比べると、学校としてこういう生徒に育ってほしいという明確な願いの中で、それぞれの先生方が生徒に話をされるときの「本気度」の高さや「真剣み」の深さが六甲学院の特徴だと感じています。

後輩思いの先輩が多くて、先輩・後輩のつながりが深いことは、六甲学院の良さだと思います。クラブ活動だけでなく委員会活動や清掃等の様々な場面で、先輩が後輩を指導する姿が見られるのは、他の学校にはない六甲の伝統として、最も大切にしたい面です。

一方で特に中学時代に「しつけ」の面で叱られる場面が多いからか、主体的に自分で物事の良し悪しを判断するのではなく、教師に見られて叱られるか叱られないかが行動の基準になってしまっている（厳しく叱らない教師の前では緩んでしまう）中学生が比較的多い印象があります。通学路での態度等も含めて、教師や大人の視線があるなしに関係なく、常に周囲に配慮をすることのできる主体性を持つことが課題だと思います。

校長に就任されて意欲的に取り組みたいこと（変えたいこと、変えたくないこと）

高橋：1 イエズス会教育の観点を込めながら六甲教育を行なってゆくことが、自分の使命ではないかと考えています。

次の(1)～(3)のような特徴をもった人間の育成を目指したいと思います。

- (1) 優れた学問的な知性と、常に周囲の人を大切に作る人格とを兼ね備えた人間
- (2) 他者のために、他者と共に生きる人間（他者のために自分を生かすことを喜べる人間）
- (3) 仕えるリーダーとして4 C's（有能さ・共感する心・良心・行動力）を兼ね備えた人間

卒業した方々にとって(1)・(2)は、多少表現は違っても聴いたことのある内容かと思います。

(3)のうちの4 C's（Competence, Compassion, Conscience, Commitment）は、最近世界中のイエズス会姉妹校で、教育の目指す人間像を説明するキーワードとして急速に広まっているものです。

時代の流れの中で新しい強調点・観点は加わりますが、目指す人間像は共通しています。イエズス会教育とは、「世界的な視野に立ってこの社会の現状を深く洞察し、この世界をより人間的なものにしてゆくために協働で課題解決に取り組む人間、特に困難な状況にある弱く貧しい人々の側に立って、その人々のために惜しみなく自分の能力を活かし尽くす人間を育てる全人教育である」、と言えると思います。

「仕えるリーダー」というのは、現代のイエズス会教育で目指されているリーダー像なのですが、偉くなり表に立って

権威を揮う意味でのリーダーではなくて、表に立たなくとも弱い立場の人々の必要に応じて下から内から支えていくリーダーです。イエスの生き方を示す姿として、どのキリスト教の学校でも求められるリーダー像だと思います。そのリーダー像はイエズス会教育としては、1973年に当時イエズス会の総長だったアルベ神父様が、聖書にある良きサマリア人をモデルとして、“Man for Others”という言葉を出され、それが現代でもイエズス会教育の中心モットーとなっています。

2 イエズス会教育は、その始まりから「知的な卓越性」を大切にしてきた伝統があります。

一方で、21世紀に入ってイエズス会学校は「19世紀の校舎（設備）で、20世紀の教育法を用いて、21世紀の生徒を教えている」という批判的認識もあります。その反省から、世界的にはイエズス会学校の教育はこの20年ほど、現代のテクノロジーも有効に用いながら人間教育をしてゆく方向へと、大きく現代化を試みています。六甲学院も、21世紀型のICT化・探究型の学習ができる設備を整えつつありますので、伝統的な教育のよい部分は残しながらもICT・探究型学習を取り入れて現代化する努力が必要だろうと思います。

従来からの講義形式を決して否定するわけではないですが、さきほど申し上げた今でもモデルとしている中学時代の社会の先生の授業のように、生徒同士が互いの対話の中で考えを深め合う機会が授業の場の中にあってもよいと思います。現代的なテクノロジーと方法を用いながら生徒たちが知的な切磋琢磨をするような探究型の授業を、もう少し積極的に学校全体の取り組みとして取り入れられたいと考えています。

2007年にイエズス会教育を学ぶためにニューヨークに行き、フォーダム大学の大学院で学びながら、敷地内にあるフォーダム高校を継続的に見学しました。その際、そこでは、ITを駆使しながら物事を調べ対話をし発表する授業が進められていました。新校舎5階部分の学習センターは、そうした授業を支援するための施設として、新設されたものです。学習センターという場をよりよく活かせるような授業を、六甲学院として進めていければと思っています。

法人合併した上智大学との連携の中で、国際的なネット



校長室での高橋校長先生

ワークや、現代的な教授法や、教授たちの知的な営みを、生徒たちの教育活動に活かしてゆくことを、これからもっと考えて行きたいとも思っています。

3 教育活動の中で、イエズス会教育の特徴である「体験」を深く「振り返り」、次の「実践」に生かすことを、まず大切にしたいと考えています。

イグナチオの教授法（IP）と呼んでいるのですが、「体験—振り返り—実践」のサイクルを各教育活動に取り入れられたらよいと思います。「振り返る」ということ、そして振り返りを通して得た気づきを基に、次の行動を選ぶ「識別」を、生徒の生活の中に根付かせたいと思います。上智の文化だった「分かち合い」も、イエズス会教育が大切にしてきた「体験の振り返り」の機会だったのだと思います。

授業や行事や社会奉仕などの体験を振り返る機会を、大切にしたいと思います。「瞑目」はそのための機会でもあります。授業の中で新しい学びや気づきは何だったかを振り返る、日常生活の中で自分の心が動いた出来事の奥にある大事なメッセージを振り返る、行事や課外活動の体験の中で自分にとっての体験の意味を振り返る。その気づきをもとにして次の行動を選び取ることが、イグナチオが大切にしてきた「識別」です。

イエズス会の創立者聖イグナチオはすべてのことのうちに神の働きを読み取る心眼を育てることを大切にしてきましたのですが、日常の中で永遠なるものからのメッセージを読み取る心の眼を育てられたらと願っています。武宮初代校長の石碑の言葉にある「永遠なるもののことを静かに考える」こととも、それはつながると思います。

4 イエズス会教育の強みは、世界にネットワークがあることです。その強みを生かす教育はぜひ意欲的にしてゆきたいと思います。

現在はコロナ禍で海外研修はできず、海外姉妹校とリモートでの交流を始めていて、それはそれで参加する生徒にとってはよい体験となっています。現状に合わせたリモートでの交流は行ないながら、世界的なコロナ感染がおさまってからは、海外研修として、生徒たちが他の国のイエズス会学校の生徒たちと直接出会って交流する機会を、より充実させたいと考えています。これまで六甲がしてきた海外研修として、インド訪問とニューヨーク研修があるのですが、訪問地域を拡充して、生徒が望めばそのすべての生徒たちが、海外のイエズス会学校の生徒たちと交流できる機会を作りたいと考えています。

5 伝統的な教育は今も生徒の成長には有効だと思っています。

ただ、コロナ禍の制約の多い生活の中で、生徒にとってしんどい思いが先行する学校生活になってしまうと、負担感とストレスの中で気持ちが行き詰まる生徒が出かねないのではないかと心配になることもあります。現在行われている教育活動だけでは児童・生徒の心を十分に引き付けられないことも確かです。「楽しい」と思える学校活動も取り入れる必要はあると思います。

生徒が楽しさを味わえるようなイベント的な企画も必要だと思う一方で、学校が提供する教育活動としては、やり甲斐や意味を感じて達成感を伴う楽しさ、知的好奇心が刺激されたり満たされたりする楽しさを重視したいと思っています。授業と共に、文化祭や校外学習などの行事や課外活動などでも、SDG's + UAP's（現代のイエズス会が取り組む貧困・環境・若者・識別を大切にする方向性）の要素を、少しずつでも加えられるように意識したいと考えています。

ここでいう楽しさとは、勉強でいえば知的な興味を惹いたりそれが満たされたりする楽しさであり、行事でいえば充実した体験や発見があったという楽しさです。生徒が学校に心地よく通い続けることができるためにも、そして魅力ある学校であり続けるためにも、六甲をそういう面では変えていかなければいけないこともあるのではないかという思いもあります。楽しい体験の中で価値や意味を実感できる喜びを提供できる学校になっていければよいと考えています。

六甲伯友会に期待されること、学校（教職員、現役生）との関わり方などについてはどの様にお考えですか。

高橋：前回の伯友会の会報の挨拶にも書いたように、私は六甲精神を端的に指し示すのは、六甲の卒業生だと思っています。それはニューヨーク研修で伯友会の方々と生徒たちとが交流する中でも確信したことです。六甲生にとっての生きる指針になるような関りを期待しています。六甲教育に精神的な面・経済的な面も含めて様々な形で協力していただくことは、今後お願いしたいと思っています。伯友会の方々と相談しながら、次のようなことに取り組めたらと思います。

- 1 六甲での教育が社会に出てから、どう生かされているかを伝えていただく機会
- 2 生徒が進路を選定するために役に立つ話をしていただく機会（キャリア教育）
- 3 学力向上のためのアドバイスやサポート
- 4 伯友会の方々が今働いている場所への訪問と交流機会

伯友会の方々と六甲のこれからの教育やイエズス会教育のヴィジョンを共有する機会を持ちつつ、実際的な教育活動の中でも協力をお願いできたらと思っています。

イエズス会教育についての研修先としてニューヨークのブロンクスで9か月間生活した後に、マンハッタンに在住し働かれているOBの方々と交流する機会があり、それがニューヨーク研修を始めるきっかけでした。立ち上げから3年間は引率者として同行したのですが、その時の経験からも、伯友会の方々が六甲生との交流の中で六甲教育が社会でどう生き続けているのかを伝えてくださることは、生徒にとって大変刺激的なことであり意義深いと考えています。2回目にニューヨーク研修に参加した生徒が中心になって、東京研修が実現しました。今の時代であれば、海外も含めてOBの方々とオンライン交流もできるプログラムが作れるかもしれません。今後も、様々な形で六甲教育へのご理解とご支援を宜しくお願いしたいと思います。

第14回六甲伯友会OB講演会

第14回となるOB講演会を2021年6月25日(金)の6時～7時に中学3年生を対象にザビエル講堂で行いました。(高校3年生の一部も途中参加しました。)昨年度は新型コロナの影響で実施できませんでしたので、約1年半ぶりのOB講演会となりました。

今回は緩和ケア医としてご活躍されている52期関本剛さんにお話しをしていただきました。



最初にご自分の六甲時代の写真をスクリーンに映し出しながら、ご自分の経歴をお話になられました。中1の時に丸坊主が廃止になり、阪神大震災の時に六甲を卒業されたそうです。そして現在のお仕事である「緩和ケア」とはどういったものかについて、実際のがん患者さんの写真や看取りの写真も使いながら、ご自身のご経験に基づいた具体的なお話をしていただきました。

次に関本さんご自身が「がんになって余命宣告を受けた」こと、そしてそれ以降どう生きてきたかをお話しいただきました。

- ・判明したときは奥さんと2人で泣いた。
- ・家族や仲間など多くの人が自分のことを案じてくれると知り、いつ死ぬかは分からないがそれまではしっかり生き抜こうと考えた。
- ・「やっておきたいことのリスト」を作成し、それを一つずつ実行している。
- ・リストの中には自分の葬儀でのお別れの挨拶もある。

などと話されました。そして、自分の生きた証を残そうということで書かれたご自身の著書『がんになった緩和ケア医が語る〈残り2年〉の生き方、考え方』をご紹介されました。

最後に「難関大学にいくこと」はそれに越したことはないが、それは何かになるための過程でありそれ自身が目標ではない。大学の先の目標を考える、今は目標がなくても、見つける努力をしてほしい。「目標に向かって情熱をもって進み続ければ、「いい仲間」、「いい師匠」に出会えることが出来、それらの出会いが運命を変えてくれると話されました。

中3の生徒からは、「がんになってから患者さんへの気持ちは変わったか」、「がんになってからも仕事を続けるのはどうしてか」、「科学的な医学と宗教との関係についてどう考えておられるか」といった質問があり、1つ1つに丁寧にお答えいただきました。

今回は講演会終了後、中3全員がそれぞれ「振り返り」を書いて、後日それを関本さんのところへお届けすることになっています。

また、関本さんの張り付き取材をしているNHKのカメラも入り、当日夕方のNHK神戸放送局の「リブラブ兵庫」でも放送されました。NHKが撮り続けている関本さんの記録については、秋頃にNHKのEテレで全国放送される予定とのことです。

(六甲学院中学校・高等学校 林 豊 記)



株式会社 カーニバル

代表取締役社長 平田昌義 (28期)
(親不知の会 No.5)

頑張ろう六甲 OB

渡部賢一 (28期)
(親不知の会 No.2)

高橋金属 株式会社

代表取締役 高橋伸治 (28期)
(親不知の会 No.1)

山本香料 株式会社

代表取締役社長 山本芳邦 (体操部・28期)
(親不知の会 No.3)

支部だより

コロナ禍の影響で、様々な方面での活動が制限される中、コロナを逆にとり、コロナ禍だから実現出来た企画としてWEBでの対談が実現しました。シンガポール伯友会の皆さんと楽しく語らった様子をご覧ください。

シンガポール伯友会とのWEB対談

時 間：2021年8月20日（金）

20：30～（日本時間）・

19：30～（シンガポール時間）・

6：30～（アメリカ時間）

対談時間：約2時間

シンガポール伯友会：50期 善野多加良氏、58期 吉田泰晴氏・山中浩之氏、65期 森山遼氏

GUEST：50期 中村崇明氏（アメリカ）

広報委員会：20期 宇都宮光、50期 藤枝 誠

①みなさんの仕事内容について・シンガポールで仕事をしている理由・自己紹介などをお聞かせ下さい。

善野：アメリカの商社に勤務しています。10年前に1年間ロンドンで、4年前からシンガポールで勤務しています。食品原料の輸出入がメインの会社です。私は主にチョコレート原料を扱っていて、カカオはガーナ・インドネシアから、乳製品はヨーロッパ・オセアニア地域からシンガポール周辺国への輸出入・販売をしています。例えば加工して日本のチョコレートメーカーに卸しています。シンガポールでは500人位社員がいる中で、日本人は私とローカル採用の1人だけです。国別で考えると日本人はマイノリティで、最初は苦労しましたが、段々慣れてきたという感じです。

吉田：日系海運会社に勤務しています。去年からグループ会社のコンテナ船の輸送会社に出向でシンガポールで勤務し



善野氏

ています。グローバルのヘッドクォーターとしてヨーロッパ航路の統括を担当しています。

山中：日系金融機関のシンガポール駐在中で、アジア太平洋地域のいろいろな支店における資金繰り関係のリスク管理をしています。現地の人達と一緒に仕事をしています。今までに英語や考え方の違いに苦労しましたが、今は何とかやっています。

森山：2015年からシンガポールに出向で来ています。日系商社勤務で石油化学のトレーディング・販売をやっています。仕入先としては中東、東南アジア、韓国、台湾とバラエティがあります。売り先は中南米、イスラエル、インドネシアの日系のお客様に販売しています。内容としてはトレーディングで善野さんに近いと思います。また、プラスチックの原料である合成樹脂をトレードのハブとして取り扱っています。

中村：日系の産業用大型機械のメーカーに勤務しています。現在、世界最大サイズのパイプ製造ラインの立ち上げのために、アメリカのアーカンソー州に長期出張中です。

②シンガポールでの仕事の難しさ、逆に楽しさなどを教えてください。

吉田：他のアジアの駐在との違いは、アジアのヘッドクォーターやグローバルのヘッドクォーターをおいている会社が多いことがシンガポールならではのところです。ここから全世界へ出る、そこが面白いところ。シンガポールには生産拠点が無いので、トレーディング、金融、物流のアジアの本社機能をおいている会社が多い。会社には現場が無いので、常に遠隔操作です。シンガポールの面積は、東京23区や淡路島位の大きさで、それに約500万人（東京23区は約1000万人、淡路島は約13万人）が住んでいます。また、たくさんの外国人が来て働いているというのも特徴です。日本人は約4万人。アジア人も韓国人も多いし欧米人も多い。駐在で働く人にとっても対外人の環境が整っています。

森山：とにかく人が多いと思います。欧米系の企業含め色々な企業がアジアのヘッドクォーターを置く事が多い。人種も様々で色々な方々と仕事ができることがシンガポールの魅力です。アジア各国やインドにもすぐに行けるなど地の利が好いと思います。しかし今はコロナ禍で地の利を生かせないのがもどかしい部分もありますが、プラスチックはマスクとか防護服等にも使われていて、生活に密着した分野なので数字としては安定しています。景気に振れが無く、

高 端 歯 科

〒657-0065 神戸市灘区宮山町3-3-29 六甲ヒルコート102号

高端泰伸 (33期)

TEL (078) 871-6545

神戸駅前法律事務所

〒650-0027 神戸市中央区中町通2丁目2番17号 武田ビル5階

弁護士 佐藤功行 (41期)

TEL (078) 381-7612, FAX (078) 381-7591

E-mail: yoshixbb@gmail.com



吉田氏

コロナ禍前後ではあまり変わっていません。

善野：食品も生活に密着しているのでコロナ前後でも安定していて堅調です。中でも小麦は好調で数字を伸ばしています。チョコレートは付加価値商品で、その商品を買うかどうかで少し減ったりはしているけど全体としては安定しています。吉田君の業界は、コンテナが来ないという問題があって、時間通り物が着かないとか、コンテナの価格が上がったりはしています。ただ今のところ、それ程の影響はありません。コロナが始まって1年半オフィスに行っていないのでシンガポールにいる意味があるか？とふと疑問に思うこともありますが、現場に行かなくても仕事はできています。

藤枝：私は建築関係で現場に行ってるので、すごくギャップを感じます。

中村：コンテナ船が世界的に大変混み合っている状況で、日本で製造した機械をアメリカに輸送する時など、船の予約に大変苦労しているんですが、シンガポールの状況はいかがですか？

吉田：コンテナ船の需要に関してはご存じの通りで、東西航路の極東アジアからアメリカ・ヨーロッパ行きは現状混んでいてスペースが取れない状況が続いています。通販やアマゾン等の巣ごもり需要の影響です。旅行もできないしひまだから模様替えをするのに家具を買おうとか、中国で作ったものがアメリカやヨーロッパにたくさん流れていて、コロナで逆に荷物は増えているのでなかなか便が取れない。船の業界は定価が無く、需給の関係が大きく影響するマーケットなので船の運賃が変動し、今は高騰しています。物流に於いて、船の方が飛行機と比べ、圧倒的にCO₂排出量が低く環境負荷が無いので、コンテナ船の貨物は右肩上がりで空輸は余りありません。半導体などの高付加価値のものでない限り船便がほとんどです。

藤枝：ネットショッピングが増えていて、国内でも物流関係の倉庫建築の需要が右肩上がりで伸びています。世界的に見ても物流が世の中を動かしているというところがありま

すね。

吉田：アジアではミャンマー、インドネシア、バングラデシュ、インドそしてアフリカでも、発展途上の国々の購買力が上がり、そして輸入し始めるので、需要は長期的には莫大なものになります。

藤枝：物流はドローンで飛んでいくみたいなイメージがあるんですけど意外にそうではないんですね。

善野：僕らが扱っている物は1回で100tとか輸入しているんで、コストを考えると飛行機を使うと単価がすごく負担になりますので、工場がストップしたときなどの超急ぎの時以外は船が主流です。

宇都宮：タイのシラチャで10年滞在の経験があるのですが、郊外に行けば空き地にコンテナがたくさん積まれていました。コンテナの管理はどうやって回しているのですか？

吉田：コンテナ1つ1つにナンバーが振られていて、それぞれを追跡できるようになっています。例えばタイのトヨタに貸したコンテナが、ドイツのハンブルグに持って行かれて今ドイツの置場に置かれています、というのが判るようになっています。リアルタイムで所在や在庫を管理している。輸入世界一で輸出の少ないアメリカにコンテナが集まりやすく、アジアに戻さないといけなく。在庫管理が一つの大きな仕事で、少ない本数でいかに効率良くコンテナを回すかにかかっている。コンテナは船会社が所有していて、一航海ごとに船会社がお客さんに貸しています。

山中：物流のお陰で巣ごもりの中でも生活実感としてネットで注文するとすぐ物が届くという便利な世の中になっている一方で、人の移動に関連する業界は自粛やロックダウンがあって、そういう所ではダメージを受けていて、各営業拠点でも出張が出来なかったり、出社出来ずテレワークでオペレーションを行っているなどの制約を受けています。物はあるけど人に依存している所は厳しい。物流面では無いが、人の面では変化を感じています。遠隔操作をするにしても遠隔先にも人がいてその人たちも色々大変です。ミャンマーなど政情不安がある国は大変です。

善野：関税が安いので中間品を作るお客さんは工場を持っています。工場の現場では、ラインで働きたいシンガポール人が少ないので、マレーシアなどからの出稼ぎで工場に働く人が多い。コロナがひどくなった時にシンガポール～マレーシア・ジョホールバル間の橋が止められました。その時マレーシアに戻った人はその後も1年以上シンガポールに来れなくなってしまっていて、工場も稼働を落とさないといけなく

東淀川井高野郵便局

〒533-0001 大阪市東淀川区井高野1-33-39

局長 三千敏弘 (36期)

TEL(06)6340-6681, FAX(06)6340-5974

足立優歯科・神戸デンタルドックセンター

〒658-0072 神戸市東灘区岡本1-3-33

院長 足立 優 (36期)

TEL(078)411-0024, FAX(078)411-0056

URL: <https://www.adachi-dental.jp> E-mail: info@adachi-dental.jp

なっています。逆にシンガポールに居続けている人は故郷のマレーシアに戻れなくなって分断されてしまい、遠い故郷になってしまった人達もいます。

吉田：シンガポール人はみんな気持ちホホワイトワーカーです。工場などの単純作業・建設労働者・メイドさんなどはみんな外国人。海外からどんどん労働者を受け入れて安い賃金で働かしているという少しいびつな社会になっています。そこにシンガポールがダメージを受けている背景がある。日本はまだそこまででは無いと思います。

中村：海外出張が出来ない中、商社のビジネスは大変ではないですか？

森山：大きい障壁になっています。よく話をするお客様だとWEB会議でやり取りは出来るが、新規のお客様との信頼関係を築くのはWEB会議だけでは難しいですね。一緒に開発しましょうとか、ちょっと込み入った話になると出張しないとダメ、というのは感じています。商社は色んなところで人を張りめぐらしているのです、出張できない状況が多い中でもネットワークを活用して、現地の情報を収集しやすいというアドバンテージはあります。以前メイドサービスを探していたら、フィリピン人かマレーシア人しか居なくて高いうえになかなか見つかりませんでした。コロナ前ならシンガポールから車で1時間でマレーシアのジョホールバルに行って調達出来たのですが、人の出入りが難しくなり、人の供給が止まっていて、人手不足になっている面があります。

③シンガポールでのプライベート生活やコロナ禍の海外での生活全般についてお聞かせ下さい。

善野：コロナ前は空港も近いし、土日で色んな所に旅行をしていましたが、コロナ後はそれが出来なくなり、リフレッシュ出来なくなりました。しょうがないと思う部分もありますが、小さい国でも意外と知らない所があって自然も多かったり、観光では行かない所に行ったりしています。ローカルな所やコミュニティカレッジなどに行ってヨガを習ったり、コロナが無かったらそこまで入り込めていなかった、



山中氏

ということをやっています。どういう風にプライベートを作っていくかは自分の行動次第なので、積極的に行く場所や、やる事を探すという感じです。

宇都宮：日本人墓地がありますが行かれましたか？日本人が土地を買って公園にしたという話とか怪傑ハリマ王の墓碑や文学家の墓碑もあります。

善野：去年日本人墓地に行きました。結構大きな墓地でした。200ドル払うと、敷地内にある記念碑に名前を彫ってくれるそうです。強制的に働かされていた女性のお墓もありました。

吉田：淡路島位なのでちょっと移動するとすぐ一周回れます。日本国内には各地に文化のバラエティがあり、行ききれないくらいの場所がありますが、シンガポールは「明るい北朝鮮」と言われるように、共産主義的で厳しい管理社会です。尤もシンガポール人はそれに慣れているようですが。ある日突然レストランクローズすることあって、アフター5のリフレッシュもままならない日々が多かったです。

善野：マレーシアの工場へも行けなくなりました。

吉田：国の出入りもしづらい、仮に出れても戻りにくい。しかし管理されているのでその分コロナの感染者は少ない。今は1日の感染者が数十人でも多いという感じです。感染者0人という日もありました。日本とは比べ物にならないくらい厳格という感じがします。新しいことを見つけないという感じですね。もともと好きな釣りをしたりとか、速く走れるいい自転車を買って走ったりしていますが、マレーシア国境にも結構すぐ行けてしまう。往復で50〜60キロ位なので、国内一周も半日あれば出来てしまう。あとはこんなところあるんだとか、新しい発見をするとか、ですかね。

藤枝：キャンプは出来ますか？

善野：シンガポールでは一番高い山でも160mくらい、マレーシアに行けばあるのですが。

吉田：人里離れたという所がありません。そういうのは求めたらだめですね。

森山：キャンプ場もあるにはありますが高層マンションが見えたりするので「なんちゃって」になる。周辺の国はシンガポールに比べて感染者が多いのが実情です。

善野：ジョギングはシンガポールの海沿いなどで出来ます。コロナ前は、インドネシアなどの綺麗なビーチホテルを予約して、旅行に行くというのが出来た。今は、出来ないでシンガポール人はよく我慢してるなあと思います。一方、日常生活ならば、ワクチンを打っていればレストランにも行けま

 **ポートピアホテル**

〒650-0046 神戸市中央区港島中町6-10-1
代表取締役社長 **中内 仁 (42期)**

TEL (078) 302-1111, URL: <https://www.portopia.co.jp/>

 **iCRAFT**

アイクラフト株式会社
地域に喜ばれるITを届けよう

TEL (078) 391-2900, FAX (078) 391-2901, URL: <https://www.icraft.jp>

〒650-0034
神戸市中央区京町83番地
三宮センチュリービル13F

代表取締役
山本裕計 (43期)

す。

吉田：シンガポールは「いい」という意味の FINE と、罰金の FINE をかけて、FINECITY と呼ばれています。マスクしていなければ 2～3 万の罰金、〇〇アンバサダーという赤シャツ隊が町中にて取り締まっています。多分コロナで職を失った人に職を与えているのでしょう。

善野：マスクを鼻迄上げろという指導もされます。

中村：アメリカはニューヨークなどの都市部の状況は不明ですが、現在滞在しているアーカンソー州では誰もマスクはしていません。私が現場でマスクをしていると、逆に「もしかしてコロナなの？」と聞かれます。国内線の機内ではマスク着用が義務付けられてましたが、街中では誰もしてないのが現状ですね。

山中：私は家族で生活しているのですが、行動制限で近隣諸国に行けないし、レストランにも行けません。公園とかも立入禁止になっています。海岸線や山や丘に出かけたり。日本とかほかの国より宅配は充実しています。食の多様性があるマレー系、インド系、中華系などの色んな料理を家で楽しむことでストレスを発散しています。外で遊べないという思いは仕方ないけどあります。立入禁止になっていない所で身体を動かすとか、道を歩くとか、階段を歩くとか、そういう過ごし方をしています。

④文化の違いや言語の難しさで苦労されたことがあると思いますが、どのように克服されましたか？

善野：会社でもバラエティ豊富なバックグラウンドの人達がいいます。同じ国の人でも色んな価値観もあるし、宗教の違いもあります。僕のチームはシンガポール人が一番多いけれど、オーストラリア人とインドネシア人もいて、会議をするとスピードが速く、ぱっぱと決めていかないと追いつきません。80 点～85 点の出来で仕事を回していくことが求められます。85 点から 100 点に上げる労力や時間は 0 から 85 点まで上げる場合とほぼ同じなので、大きな失敗がないなら、目をつむむという感じでした。しかし最初はそれになじみませんでした。日本の会議はダラダラしているのに、会議時間に 2～3 分遅れると怒る上司がいて、またそういう上司に限って 30 分くらい会議が延びたりするけど、こちらの会議は時間通りに終わります。そこはマネージャーとしてチャレンジが必要な部分でした。

宇都宮：仕事は英語が共通語だと思うんですけど、プライベートの時に使う言葉や公用語は何語ですか？



森山氏

善野：英語が一般的で、ご年配の方も英語をしゃべる。こちらにいる友人としゃべる時やボランティアをする時も英語を使う。公用語は英語・中国語・タミール語・マレー語の 4 つです。ワクチン接種の注意事項や電車の表示も 4 か国語で書いています。中華系が 75% ぐらいいるので中国語も多い。シンガポール人の部下同士は、聞かれない話話中国語でしゃべっています。何を言っているかわかりません。

吉田：日常生活は英語が喋れたら、スーパーのおばちゃんでもレストランのお姉さんでも誰でも英語が喋れるので何にも苦労しません。中華系が圧倒的に多いので、ローカル同士は中国語でしゃべっています。国民がみんな英語をしゃべるので、そういう意味でも世界中から来やすい国です。英語が喋れる人は何にも苦労しません。私は善野さんのように留学していなかったのが英語で仕事をするのは大変でした。日本で仕事していた時も海外とのやり取りは英語で書類は書いたりしていたものの上司や部下は日本人だったので会話や書類は基本日本語でした。そういう経緯でここ来ると苦労する場面はありました。今の会社はシンガポールが本社なので、上司はイギリス人、E-MAIL はすべて英語。実力不足だから苦労しているという感じです。今は英語の勉強はやっていません。10 年以上やってきているので今ではそんなに困っていません。ヨーロッパ航路の担当なので、話すのはロンドンとのやり取りで、ロンドンの会議に入るとネイティブの早い英語なのでついていくのは大変です。シンガポール人の英語はゆっくりなので聞き取りやすいです。アジア人英語なので。

森山：入社 10 年目で、こちらに来て 7 年目ですが、英語は入社してから勉強しました。社内試験をクリアしないと駐在に出れないので、そこが一番苦労しました。仕事上では無難にしていますが、もどかしい思いは今でもしています。幸い周りにいる人がアジア人なのでそんなに難しくはない。でも、映画は字幕が無ければわからない感じです。

山中：日本からの駐在の人はそうではないのですが、シンガ

森一産業株式会社

〒550-0012 大阪市西区立売堀 5-4-40
代表取締役 渡辺喜弘 (44 期)

TEL (06) 6541-2271, FAX (06) 6541-2302

株式会社 村上工務店

〒652-0815 神戸市兵庫区三川町 2 丁目 4 番 8 号
相談役 村上良隆 (21 期)
代表取締役社長 村上豪英 (48 期)

URL. www.murakami-gc.co.jp E-mail: info@murakami-gc.co.jp

ポールの人は転職が多い文化があって、仕事で得が無いと他の会社に行ってしまうという点が考え方の違う所です。暗黙の了解というものが無いというのをひしひしと感じています。日本人の英語はダイレクトな強い英語になってしまいうらしい。相手の感情に配慮した英語を使えていないことでダイレクトな強い英語で伝わってしまうケースがあります。シンガポール人も欧米の人から言わせるとダイレクトな英語を使っていると言われるらしいのです。日本人のような暗黙の了解が伝わらないという所が難しい所です。

善野：暗黙の了解というのは日本人、アジア人ならではだと思います。今は、対面で会えないのでオンライン会議が多い中、更にオーバーコミュニケーションしよう、画面で顔を見ながらオープンにしよう意識してやっています。

吉田：会議の中でしか決めない、後で決めるということがありませんね。私の上司は日本の会社と考え方が違う。残業もしないし、毎日サイクリングに行っちゃう。行間読んでとか、後で話せるからいいかというのが無い。シンガポールの会社でも日本人が多い職場だと違うかもしれませんが。

山中：暗黙の了解が無いのでははっきり言わないとわからないが、はっきり言いすぎるとダイレクトな英語で感情に配慮していないと取られる場合があります。言わないと分からないけど、言い過ぎると逆に反感を食らいます。

吉田：山中君の英語力だとこんなもんだと思ってるんじゃない？

山中：ダイレクトに言わないようには気を付けないといけない。

吉田：イギリス人同士だと独特のカッコいい言い回しをしています。何言っているのかわかりません。聞いたことのないカッコいい言い回しです。語学力があればあるに越したことはなくて、よりネイティブに近い言葉で話をした方が仕事の幅が広がるとは思います。

⑤六甲と今の自分との関係はどうですか？

藤枝：私は30代の頃、六甲から離れていくばかりでした。今は六甲との関わりをすごく考えたりしています。六甲に行ったから今の海外生活との関係があるとか、そういうのを感じることはありますか？

森山：間違いなく関係があると思うんですけど、六甲での経験があったから海外で働いているというのはありません。幸いシンガポール伯友会の方と会う機会があり、そんな時はふと落ち着く感じがあります。何かしら関係があるのでしょね。



中村氏

吉田：僕は、あんまり関係ないと思います(笑)、六甲って海外志向を高めようとか、特別英語教育が強いとか、少なくとも僕の時代はそうでは無かったの。

善野：小学校の塾での成績で、とりえず受かりそうな六甲に入った。入ったら頭のいい子がいっぱいいて、真ん中より下の成績だった。陸上部で庭園毎日30周とかしていて長距離が得意だった。結構いたずらとか悪さして、先生に怒られていたりして、自分は六甲に合っているのか、報徳とかの方が合うのではと思ったこともありました。報徳に受験しようとかも思っていて学校を見に行ったりしていました。中3の2学期の終わりにディアス先生(スペイン人)に学校が合わないかもしれないと相談したとき、「色んな人がいるべき学校だし、色んな考え方があっていい」と言ってくれました。その時から海外に目が向くようになりました。それがずっと頭にあって六甲を卒業してからも続いていた。今考えるとディアス先生のあの一言が大きかったです。優等生ではなかったけど、「そんなの全然気にしないでいいよ」って言ってきて、日本人の先生だとまた違う言い方をしていたのかなと思います。あの時そう言ってきて確か(感動して)すごく泣いたと思います。ディアス先生の言葉があって今につながっていると思います。その後のオーストラリア留学も含めてそう思います。

宇都宮：30代までは六甲とは関係を持たなかったが、40歳を過ぎたぐらいから六甲の卒業生と会うようになりました。伯友会のお手伝いもするようになりました。20代、30代の頃というのはあまり無かったと思います。40歳過ぎて50歳くらいになると、藤本会長がこの間おっしゃっていた帰属意識が出てくる。6年間いたので教育が自然に身についている。体に染みついている。公立に行っていると3年・3年で切られるので身につかないのではないかな。

善野：中学の頃は学校が合ってるのかなと思っていたが、卒業してから逆に合ってたんだと強く思う様になって、毎年50期と会ったりして、あの時辞めてなくて良かったと思う。

森本謙税理士事務所

〒657-0051 神戸市灘区八幡町2丁目6-11 サン六甲201

税理士 森本 謙 (49期)

TEL (078) 767-1601, FAX (078) 767-1602

E-mail: k-morimoto@kcc.zaq.ne.jp

神戸サン司法書士事務所 神戸サン相続遺言相談所

〒650-0031 神戸市中央区東町116番地の2 オールドブライト4階

司法書士 渡邊三郎 (49期)

TEL (078) 333-0088, FAX (078) 333-0038

E-mail: watanabe@westkobe.com

今でもディアス先生に感謝しています。人生の岐路でどちらを選ぶかだったが、あの時六甲を選んで高校卒業して良かったと本当に思います。

吉田：六甲は進学校ではあるんですけど、違う所は便番、中間体操、体育祭があったり、六甲へ行っていなかったら神父さんと触れることも無かったと思います。シンガポール伯友会の人達と会っているととなつかしいとか落ち着くのは特殊な共通体験があるからだだと思います。街中ではないあの坂を登っていたという全員の共通体験もあると思います。

善野：シンガポール伯友会のメンバーと会ってるときにも必ずどこかでそういう話になります。共通体験があるというのは大学の友達とか会社に入ってから友達とは全く違うと年を重ねる毎に思います。

山中：僕は在学中、訓育生をやっていました。六甲教育に不満があるかというところではなく、土台にはなっていますが、まだ言葉でうまく表現出来ていません。まだ六甲と自分との関係がつかめていません。伯友会の方とか卒業生と毎回過去について話が出来るのはありがたいと思います。

藤枝：懇親会の幹事を通じて伯友会のお手伝いもさせてもらったりしていて、この間の藤本会長のインタビューでも感動しましたし、さらに六甲愛が深まっているという、この温度差すごいと思うんですが(笑)

吉田：親父も六甲です。25期あたり。坐藤先生とかぶっていたとのことなので。

宇都宮：中2ぐらいで佃先生は新卒で教師として六甲に入ってきた。当時の六甲は今の進学校のイメージとは違っていたと思う。訓育が中心の学校だった。先生は神父さんが多くドイツ人の英語を学んだ。英語教育に力を入れていた。

藤枝：コロナの影響で今六甲では便番や中間体操を満足にできず、体育祭もクローズで行っていると聞いています。

吉田君：便番では気持ちのやさしさを育む、人に対する許容する心、人の嫌がることを進んでやるという意味で大事だと思います。このご時世ですから、共学になる可能性もあるのではないと思うけど、共学になるとさみしいですね。

宇都宮：便番は今では出来ないけど、生徒の中にはやりたい人がたくさんいるみたいで、そこは安心しています。

⑥アフターコロナ時代へ向かって、自分が抱く夢とは何ですか？

山中：変化が激しく、世の中のルールをもう一回見直さないといけない時代になっていると思います。単に前例を踏襲

するのではなく変化を起こせる人になりたい。もう40歳になったものの、まだ何か成果を上げた訳ではないですが。

森山：コロナ前から自由に生きたいという思いがあって、何が自由かという定義は無いけれど、何かに依存するのではなく、会社を起業したい希望もあります。しかし、リソースが無いと出来ないし、ただただ複雑です。やりたくないわけではありません。

吉田：コロナ中もコロナ後も自分のスキルを高めていこうかなと思っています。語学も、エクセルの細かい技とかも覚えたいと思っています。シンガポール人は高度なことをやっていて、在宅だと気軽に聞けず自分で地道にやらないといけません。

善野：20代後半から会社をやりたい、チャレンジしたい気持ちと、会社に属している自分が心地いいという二つの気持ちで揺れ動いています。今までインプットばかりだったので今後は次の世代の人達に社内でも社外でも経験を伝えるというアウトプットをやって行きたい。アフターコロナになっても、以前のように戻らないかもしれないので、VUCA(※)という先が見えない時代においては、意識的にバックアッププランを持ちながら、これがだめなら次の手と、何があっても動じないような形で前に進めていきたいと思っています。

中村：コロナが収束すれば、必ずシンガポールに飛んでいきます。皆さん一緒に、ぜひタイガービール(シンガポールを代表するビール)を飲みましょう。

⑦その他、言っておきたいことなどありますか？

吉田：シンガポール伯友会を今年の4月から引き継いで、活動を写真投稿してやって行こうと思っています。現在10人ちょっと、実は既に日本に帰っている人もいました。どうやったら探せるかとかも考えています。フェイスブックなどを使ってやっていきたいと思っています。

藤枝：伯友会オフィシャルツイッターやホームページなどとの連携や、デュッセルドルフ伯友会などとの連携を、また将来的には現役生との関わりもお願いできればいいなあと思っています。そういう活動をする事が六甲生となるメリットを増やすことになるのではと思っている。

吉田：物理的に場所共有しなくても今はWEB上で関係が持てます。こういう場に現役生希望者が混じってもよいのではないのでしょうか。

藤枝：若いOBの人達や、現役の生徒達にも発信をしていき

六甲国際ゴルフ倶楽部

〒651-1263 神戸市北区山田町西下字押部道15番地

常務取締役 加藤 敏 (62期)

六甲国際ゴルフ倶楽部 TEL (078) 581-2315 六甲国際パブリックコース TEL (078) 583-0351

URL: <http://rokkokokusai-kobe.jp/> E-mail: s.kato@rokkokokusai-kobe.jp

松川 神経内科

〒650-0004 神戸市中央区中山手通4-3-11

松川悦之 (35期)

URL: <https://shouzenkai.or.jp>

TEL (078) 231-6018, FAX (078) 241-9988

E-mail: shouzenkai@peace.ocn.ne.jp

E-mail: sumamatsu@shouzenkai.or.jp

(松川神経科)

(すま松の郷)

関連施設

介護老人保健施設

「すま松の郷」

〒654-0121 妙法寺原2-1

松川智之 (38期)

TEL (078) 741-8585

FAX (078) 741-8586

たいですね。文章ばかりではなく、YOUTUBE や Twitter を使った発信をしたいです。ただ文字は残るので文字は大事です。出版物も並行して発行することも考えています。是非このインタビュー動画も編集して限定公開で配信させたいと思っています。今後も世界各国に拡がる伯友会組織とのコラボなど、色々とイベントを企画してゆくのでご参加をお願いします。シンガポール伯友会を是非盛り上げて頂きたいと思います。ありがとうございました。

※ VUCA : Volatility・Uncertainty・Complexity・Ambiguity
頭文字を取った造語で、社会やビジネスにとって、未来の予測が難しくなる状況のことを意味します。

シンガポール支部 活動報告

開催日 2021 年 3 月 17 日

参加者 善野 (50)、山中、吉田 (58)、惣司 (61) の計 4 名
コロナ禍もあり久々の開催でしたが、当日はマリナベイサンズの夜景を背景に、それぞれの近況や、日々の奮闘、そして六甲時代の思い出話など、大いに盛り上がりました。

シンガポールでも制限のある生活が続いて早や 1 年、気の置けない仲間との息抜きの場として、今後も定期的に開催していきたいと思います。

尚、次回開催より、58 期の山中から同期の吉田への幹事交代が決定しました。

六甲のお知り合いでシンガポールにおられる方をご存じでしたら、是非ご案内をお願い致します。

58 期 吉田泰晴 (y.yasu3@gmail.com)

幹事交代の件

2021 年 4 月 1 日以降、幹事を山中から吉田に交代致します。

(旧幹事) 58 期 山中 浩之 jstgrv8@gmail.com

(新幹事) 58 期 吉田 泰晴 y.yasu3@gmail.com



シンガポール支部 懇親会開催報告

開催日 2021 年 7 月 15 日

参加者 善野 (50)、吉田 (58)、惣司 (61)、森山 (65)
の計 4 名

シンガポールでは、国内のコロナ感染状況により、会食の人数制限が設けられたり、外食が禁止になったりと、頻繁に規則の変更が行われますが、今回はその合間を縫って集まることが出来ました。

さらに今回は 8 月頭にカナダへ異動される惣司さんの壮行会も兼ねており、関西人のソウルフード「お好み焼き」をツマミに、様々な話題で盛り上がり、懇親を深めました。

コロナに負けず、定期的に懇親会を企画するつもりですので、シンガポールにおられる六甲 OB の方は、是非、幹事までご連絡下さい。

(58 期 幹事 吉田泰晴 記)

連絡先 y.yasu3@gmail.com



掲載広告募集中

掲載広告募集中

同期会だより

各期の同期会の報告をお待ちしております。その際、なるべく楽しい写真を添えていただければ幸いです。開催日及び場所を記載していただく以外は、特に字数制限はありません。また「伯友」は春と秋号2回発行しておりますが、「同期会だより」は秋号のみ掲載します。場合によっては開催日と掲載が1年以上隔たる場合も生じますが、ご了承ください。

例年は「伯友」誌には、学年・開催日・場所・参加者・写真のみを掲載しておりますが今回は例外とさせていただきます。また、伯友会のホームページには同期会報告の全文を随時掲載いたしております。

18 期

開催日 2020 年 7 月 27 日

場 所 Zoom 懇親会

参加者

第1回六甲18期Zoom懇親会を開催しました。参加者は、関西から太田、岡部、井上昭、早川、廣末、村上、片岡、関東から馬渡、遠藤、今城、辻川の計11人でした。お酒を飲み、おやつを味わいながらおしゃべりしました。顔を合わせた懇親会とはまた別の味わいがありました。（辻川記）

辻川さんの大変なご努力のお陰で第1回のZoom懇親会が成功裏に開催されました。本当にご苦労様でした。皆さんそれぞれに伝えたいことがいっぱいあってそれがどっと出ましたね。新年会などとは一味違ったコミュニケーションの場だと思いました。最初取っ付きにくいところもありましたが、慣れると会話が楽しくできますね。今回参加していない人もやってみれば新しい交流の場として受け入れると思います。コロナの為になかなか会えませんし、関西と関東の交流は従来から難しかったですからね。次回はもっと参加者が増えればいいですね。（遠藤記）



23 期

開催日 2021 年 2 月 11 日 午後2時より

23 期リモートクラス会騒動記

コロナ禍で俳句の句会さえもリモートで開催されるという昨今「きごさい」というリモート俳句会に我が23期の安成君が講義するという情報を見つけ参加しましたが「この方式を使えばクラス会も出来るなァ」と単純に思い「10日後にリモートでクラス会を開きます」とおっちょこちょいにもメッセージを出してしまいました。

しかし準備を始めるとZOOMでのリモートクラス会を設営するには事前登録、入室時の暗証番号、家賃、時間制限など様々な問題が噴出しクラス会開催は暗礁に乗り上げました。そこで「困った時の伯友会」で山本副会長や松下委員長にSOSを出した所豪華客船並みの助け舟を出して貰い運営のレクチャーを受けながら何とか開催に漕ぎ着ける事が出来ました。

2021年2月11日 午後2時より総合地球環境学研究所所長 安成哲三君の「アジアモンスーン気候と日本の風土」というテーマで1時間半ほど講義して貰い、30分の質疑応答、それから4時より1時間のクラス会を開き大変有意義な3時間を過ごす事が出来ました。

74歳のおっちょこちょいの幹事の騒動に参加してくれた人々26名感謝です！

東、今井、岩井、菟原、太田、大谷、嘉治井、木村、木元、桑田、近藤、志垣、清水、庄谷、高木、田中、西林、丸尾、前川、南川、谷津、安成、山中、山南、和田康
そしておっちょこちょいの幹事 湯川晶月でした。

煮凝りや形あるすべて崩れ去り

晶月

なお安成君の講演会の画像は 伯友会のホームページの同期会だよりというライブラリーに保管してありますので閲覧して下さい。（23期 湯川晶月 記）



クラブOB会だより

山岳部OB会報告

2020、2021 年度総会
阪上先生墓参報告

六甲学院山岳会（山岳部OB会）の本年度総会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、昨年同様、屋内での会合を自粛。毎年欠かさず行っている阪上秀太郎先生（2002年12月3日帰天、通称オッサン、1期）の長峰墓地のみ実施しました。

10月31日（日）、8期（89歳）から34期（62歳）までの会員15名が参集。六甲教会の中村健三神父さま（15期）の司式で、オッサンだけでなくすべての物故会員、オッサンのお隣で眠っておられる鈴田克介先生はじめ、お世話になった諸先生方のために祈りを捧げました。

今回を機に、8期の森川列会長が退任され、新会長には30期塩村仁さんが就任されました。

なお、2020年度は10月25日に18名の会員が参集。1968年～69年に六甲学院創立30周年記念行事として行ったパタゴニア遠征などの思い出等を語り、オッサンを偲びました。本山岳会のウェブサイトでは遠征の概要や「追悼 阪上先生」をご覧頂けます。（34期 佐藤俊介記）



2020年 後列左から 18 村田・奈良、15 中村、29 矢野、26 山田、30 塩村・村田、33 竹田、28 中家、34 佐藤、16 北村。前列左から 18 八代・名村、23 前川、34 藤原、25 南川、19 仁居津、26 小根田（数字は期）



2021年 後列左から 29 矢野、34 佐藤、33 竹田、34 藤原、32 三浦、25 前田、16 北村、19 五百旗頭、15 中村、8 森川、18 名村、26 山田。前列左から 24 佐伯、28 中家、26 小根田、18 八代（数字は期）



出版案内・本紹介



この欄では、会員や恩師の中で出版された方の本の案内をしたり、お奨め本の紹介や書評などの記事を掲載致します。お気軽にご投稿下さい。自薦他薦を問いません。

『天からののはしご』 創世記＜下＞

～焚き火を囲んで聴く神の物語・説教篇2～

著 者 大頭眞一（36期）

出版社 ヨベル

価 格 1,100 円+税

帯に記載されている内容

哭き叫ぶ、夢を見る、格闘する・・・。

体を張って神と向き合う姿こそ範。

八方ふさがりなどん底のただ中に降ろされた天からの梯子の表象は現代の私たちに何を物語るのか・・・。死地に活路を見い出しながら波乱の人生を生き抜いた信仰の始祖たちに聴く。パスター・オオズによる創世記講解の第2弾。



『栄光への脱出』 出エジプト記

～焚き火を囲んで聴く神の物語・説教篇3～

著 者 大頭眞一（36期）

出版社 ヨベル

価 格 1,100 円+税

帯に記載されている内容

神はねたみ深く、民のうなじはコワイ。

この旅、とても他人事とは思えない。

脱出する、荒野をさまよう、約束の地をめざす・・・。3500年前の神の民の旅路は、世界的危機の時代に生きる私たち。



『聖なる神の聖なる民』 レビ記

～焚き火を囲んで聴く神の物語・説教篇4～

著 者 大頭眞一（36期）

出版社 ヨベル

価 格 1,100 円+税
帯に記載されている内容

「聖者」って、「きよい」っていうよりか、はみ出すほどに激しく愛しちゃう人。

ささげ物と掟が満載、律法の要塞のようなレビ記。そこに描かれた「聖」を、神に激しく愛されているから、過激な激しい愛で愛するようになる人の姿だと読み解くパスター・オオズが「失敗しても愛の実験を、愛のリハビリを繰り返し続けよう」と語りかける講解第4弾。



『何度でも 何度でも 何度でも 愛』 民数記

～焚き火を囲んで聴く神の物語・説教篇 5～

著 者 大頭眞一 (36期)

出版社 ヨベル

価 格 1,100 円+税

帯に記載されている内容

肉やニラが食べたいと叫ぶ民と、殺してくれと叫ぶモーセ。さて、神は？

民の怒りとモーセの憤りと神の忿怒とが三つどもえで交錯する生の現場である「荒野」。その困難のただ中で「恵み」はいかにして語り得るのか。批判を覚悟の上、あえて恵みの生一本で行くと思わず口走ってしまったパスター・オオズの「現代に生きる」民数記講解。



『あなたに よいことが 起こるために』

著 者 マリアン・ロハス

出版社 星雲社 (共同出版社・流通責任出版社)

価 格 1,950 円+税

心と体はつながっています。人が健康であるためには心身のバランスを取ることが大切です。この本は、心と体がどのようなメカニズムでつながっているか、精神医学の立場からだけではなく、心理学、免疫学など、幅広い科学の視点で、分かりやすく書かれています。事例が数多く載せられていること、そして心身の健康を保つためにどうすれば良いかという対処法がすべてまとめられていることがこの本の特徴だと言えます。新型コロナウイルスの世界的な感染拡大という状況の中で、健康な生活を保つためには、体の健康だけを考えるは足りません。行動制限という抑圧、SNS の情報に対する不信、ウイルスに感染しないかという不安などで、多くの人が



ストレスを抱えています。ストレスは、心の健康に悪い影響を与えることがあります。そして人の免疫力を弱らせ体の健康にも悪い影響を与えることがあります。コロナ禍の今こそ、この本を読んで自分の心身の健康を保ってください。

私はこの本を編集担当している(株)学術出版印刷の32期の近藤さんより頂きました。本の奥付を見ると、なんと翻訳として同期の尾崎君の名前があるではありませんか。

彼は長くスペインにいて、今は京都で神父をしています。人の縁とは不思議な物ですね。

(30期 古泉 肇 記)

天 在 人 語

「てんざいじんご」と読む造語です。『天に在る人について語る』という意味です。亡くなられた恩師や先輩・同級生・後輩の思い出を綴った文章をご紹介します。



すみひで
草野純英神父 (イエズス会)。

2021年2月2日、同会ロヨラハウス(東京)で肺炎のため逝去。94歳。1926年愛知県生まれ。49年同会入会。60年司祭叙階。62～63年六甲助任、63～84年六甲高等学校で教え、68～77年、81～84年に同会六甲修道院(以上兵庫)副委員長を務めた。84～92年に泰星中学高等学校(現・上智福岡中学高等学校)で教え、福岡修道院(以上福岡)副院長を務めた。92～94年に山口(山口)助任、94～2001年に長崎修道院長、01～04年に長崎黙想の家(以上長崎)所長、04～09年に上石神井修道院で黙想指導を続けていたが、体調を崩し19年12月に同会ロヨラハウス(以上東京)に移り、療養生活を送っていた。生涯にわたり執筆活動を続けた。ユーモアのある明るい人柄で、与えられた職務を誠実に果たした。司祭として、教師として多くの人に影響を与えた。



のぶつぐ
馬場信次 (8期)

2021年11月13日に帰天されました。

馬場先輩は長らく8期の幹事として同期会のお世話をされたり、六甲学院の理事を務められました。またお嬢さんの森脇さんには六甲伯友会の事務局員としてお世話いただいています。

翌週には元気になるための手術を予定されていた矢先の突然の訃報でした。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

伯友会副会長 近藤 健

2021 年 7 月 20 日

六甲学院六甲会会員及び卒業生保護者、関係者の皆様へ

六甲学院六甲会
会長 阿河 伸一

六甲学院六甲会解散のご挨拶

平素は六甲学院六甲会の活動にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、先日六甲学院六甲会会員の皆様にご審議いただきました 2021 年度六甲学院六甲会総会（書面審議）の結果、六甲学院六甲会は 2021 年 7 月 15 日をもって解散いたしました。

六甲学院六甲会は 1940 年に学校に対する財政的支援を目的に創立され、永年にわたり保護者の皆様から会費や寄付金を集めるとりまとめとしての役割を主に担ってまいりました。

上智学院との学校法人合併後、上智学院より学校と別組織である六甲会の現預金の管理を学校が代行することの問題点を指摘されました。また入学時の寄付金が税制上の控除の対象とならず、入学時の寄付金自体を募集している学校も少なくなってきました。

こういったことから、今年度より学校の収入となる六甲会会費や入学時の寄付金を徴収することを学校がやめる方針となったため、六甲会としての主要な役割を終えることになりました。

六甲会会員の皆様及びこれまで六甲会に関わって来られた関係者の皆様には、永年にわたる六甲会の活動にご協力いただきましたこと、心より御礼申し上げます。

以上

編集後記

■今号は、本業が多忙のため、委員長就任後初めて編集に全くタッチできませんでした。藤枝副委員長に編集長をお願いして、樋口担当副会長を含め、広報委員会のメンバーの総力を結集した力作です。会員の皆様にお楽しみいただけたら幸いです。また、広報委員会の皆さんに感謝します。本業は、20 数年続けさせていただいたサッカー関連の仕事から離れ、バレーボールの仕事をするようになりました。またスポーツ系の専門学校で非常勤講師をさせて頂いています。来年の秋号には少し落ち着いて、また「伯友」の編集に携われることを願っています。（42 期 松下治正＝広報委員長）

■委員長の本業が忙しく藤枝副委員長が慣れないなか陣頭指揮を取る形での「伯友」秋号発行となりました。身内を潰えるのはおかしいのですが、ご苦勞様です。喜寿を迎え、作業の足を引っ張った懸念もありますが、とにかく発行できることになり一安心です。（20 期 宇都宮 光）

■広報委員会担当になって、初めて「伯友」作成の実務に参加しました。企画・取材／インタビュー・編集等広報委員の実務活動は本当に時間を掛けて一生懸命です。そのおかげで素晴らしい「伯友」が完成したと思います。また、将来に向けて、紙面だけでなく、クロスメディア展開の検討もスタートします。ご期待ください。

（39 期 樋口 隆之＝担当副会長）

■保護者の立場から六甲学院を 80 年余りにわたって支援し

てきた六甲会という組織が今年 6 月に解散しました。私もその解散に向けた議論に携わった一人として、学校を取り巻く環境が刻々と変わっていく中、変わるもの変わらないものを峻別することは、未来をつくるうえでとても大切なことだと感じました。例年の伯友秋号では、六甲学院の現役生徒や教職員の方々へのインタビューを通じて、今の六甲を垣間見る試みを続けてきましたが、今年は着任されたばかりの高橋校長に、これから大切にしようとしてされていること、それらに対するお考えやお気持ちを伺うことができました。いまのそしてこれからの六甲学院を感じとれる機会になればと願っています。（43 期 小幡成雄＝副委員長）

■この「伯友」秋号で、編集長代理をさせて頂いております。完成のゴールまで、気を抜くことなく、皆様により良いものをお届けしたい一心でした。関わられた様々な方々にこの場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

ZOOM によるインタビューを 3 回行いました。まずは藤本会長。今まで裁判官を 2 度されていて、現在は弁護士事務所の代表をされています。次は高橋校長先生。在学中に六甲の先生として入ってこられた記憶がかすかにありましたが、あれから何十年も経っています。最後はシンガポール伯友会。シンガポール在住の 4 名とアメリカから同期中村君が参加。この 4 名のうち同期の善野君以外の 3 名とは面識が無く、私は海外での仕事の経験もありません。3 つのインタビュー全てが「知らない世界」の方々へのインタビューでした。

「インタビュー」とは基本そのようなものかもしれませんが、特に裁判官や弁護士の仕事に関してはほぼ知識が無く、

藤本会長について深く引き出せるか不安な中、弁護士をしている同期の藤原君にも入ってもらいました。インタビュー中、藤原君から藤本会長への核心を突いた質問が度々あり、かなり助けられました。宇都宮先輩にも先輩とのやり取りに際し大いに助けられました。校長先生とのインタビューは小幡先輩にリードして頂き、助けられました。シンガポール伯友会には同期の善野君がいたこと、それと中村君に参加してもらったことで随分助けられました。仕事というのは、最近とみに専門性が増してきて、その世界の知識が無いと、まず「質問が出来ない」という気がします。その人の仕事に対する姿勢や思いを引き出すためには、ある程度共通した知識が欠かせない。その苦しさを、広報担当者として改めて感じました。自分が生きている世界というのは、世の中のほんの一部にしか過ぎないのだと、思い知らされました。しかし同時に、あらゆる世界を知ることは不可能だし、むしろ知らなくてよい、知っている人に助けてもらうことが大切だと思いました。そして知らないことは恥づかしい事ではない、知らないことは何歳になっても、教えてもらえばいい、という考えに行きつきました。逆にそのくらいでないと広報委員は務まらないですね(笑)。

次に広報委員会の今後の方向性について、少し述べさせていただきます。今後は、「活字」より、「動画・画像・音声」によるSNSやYOUTUBEを使い、伯友会会員に対して、また現役生にも情報を発信していきたいと考えています。そして今号に掲載したインタビューもYOUTUBEでの動画配信をして行きたいと考えています。インタビュー時の空気感や本人の肉声などは活字では伝えることが限定的で、動画の方がより実感してもらえと思うからです。遅くとも来年2022年3月末までにYOUTUBEチャンネルを整備し、皆様に生の雰囲気をお届けしていきたいと思っています。

また、伯友会懇親会や伯友会ジュニア、関東伯友会などなど伯友会の活動・イベントは色々あります。海外でもシンガポール、デュッセルドルフ、ニューヨークなど、各地に支部があり、様々な活動をされています。広報委員会としては、こうしたイベントの動画を編集し、参加出来なかったイベントを見ることが出来るようにしたいと思っています。段階的とはなりますが、配信動画の数を増やしていきたいと思えます。イベントの動画を広報委員会にお送りいただくようお願いいたします。広報委員会による取材は限られるので、各種イベントスタッフの皆様にご協力いただければ、様々なイベントの動画が見れる「六甲伯友会チャンネル」に成長できる日が来ると思います。そうした一つ一つの積み重ねが、現役生も含めた「六甲」をより大きく、盛り上げていけるのではないかと考えています。

動画を押している感じが強いですが、活字もまた、大切なツールの1つだと考えています。どちらも並行して製作し、伯友会の歴史を後世に伝えていきたいと思っています。

「六甲」発展のため、今後もみなさまのご協力をお願い致します。(50期 藤枝 誠=副委員長)

会員の皆様へ

■会誌「伯友」秋号の発送について

伯友会の会誌「伯友」の春号は会員全員に、秋号は会費納入者で秋号の送付を希望される方と、六甲学院を卒業後4年間に該当する方、全員に送付いたします。

広報委員会では、情報提供をホームページ等を通じて会員サービスの向上を諮っております。ご意見・ご質問・ご要望等ございましたら、伯友会事務局までご連絡下さい。

尚、秋号送付を追加で希望される方は事務局までお申し出下さい。

■会費納入のお願い

会員には会費の納入義務があります。会費は伯友会にとって重要な収入であり、伯友会運営にとって貴重な財源です。未納の方は是非とも納入して下さい。

〒 657-0068

兵庫県神戸市灘区篠原北町1-8-25

伯友 太郎 様

(〇〇-〇〇-〇〇)

期 学年での 会費納入
番号 状況

宛名ラベルの見方：あなたの会費が何年度分まで納められているかは、宛名ラベルに記載されています。もしあなたが終身会員であれば、会費納入状況は『終身』となっています。2021年度分まで納入済みの方は『2021』となっています。

また、会費納入実績がない場合は記載がありません。

年会費：伯友会年会費は3,000円です。会費未納期間が3年以上ある場合は、2年前に遡り本年度分を含めて3年分納入いただきます。

終身会費：終身会費は45,000円です。既に半数以上の会員が終身会員になっています。終身会員になると年会費の納入の必要がなく、毎年会費を納入する煩わしさもなくなります。また、過去の未払いの年会費を遡って徴収することはありませんので、終身会員になられることをお勧めしています。なお、今年度以降の会費を納入済みの方にはその分を45,000円から差し引かせていただきます。

■伯友基金について

伯友基金は六甲学院の教育活動と社会奉仕活動のために使用する目的で平成5年に設立された基金です。第3運動場のナイター照明もこの基金を利用して設置されました。

また、基金の一部から東ティモール聖イグナチオ学院奨学金プログラムの協力もしております。

■伯友奨学基金にご協力を

六甲学院からの要請を受け、「伯友奨学基金」を設立しました。昨今、学費に困窮する学生が増え、大学生の二人に一

人が約 300 万円の負債を負って社会に出るのが日本の現状となっています。また、長引くコロナ禍によりアルバイトなども制限され、収入の道を閉ざされた人たちも増えております。六甲学院も決して例外ではなく、奨学金を必要とする学生が年々増加しております。“家庭の経済的理由で六甲を去らねばならない後輩をひとりも出したくない”という思いで設立された奨学基金です。

伯友会からの奨学金として、年間約 50 万円の授業料相当分を一人もしくは二人に給付していくことを目標としており、これからも継続的な積み立てが必要です。引き続き基金へのご協力をよろしくお願いいたします。

*ご入金の際には必ず期・氏名をメール又は FAX で事務局までお知らせください。

*寄付者のお名前は会誌の春号に掲載されます。匿名希望の方は併せてお知らせください。

本年 9 月、伯友会関東支部長交代に伴い 30 期の塩村仁さんが退任されました。ご退任にあたり、塩村前支部長より、六甲学院の後輩達への支援のため、伯友基金および伯友奨学基金それぞれにご寄附をいただきました。塩村さんの熱いお心遣いに感謝申し上げますとともに、会員の皆さまにご報告いたします。

■伯友会事務局からのお知らせ

伯友会事務局執務時間は年末年始とお盆の頃を除いて原則的に月・水・金曜日の P.M.1:00～P.M.5:00 迄です。ご用件の内容によっては、即答出来ない場合もありますが、必ず調べた上お答え致しますので、ご遠慮なくご連絡下さい。

伯友会会費の納入は

●三井住友銀行六甲支店 (421)

口座番号 (普通) 1103520 口座名 六甲伯友会

●郵便振替

口座番号 01110 - 8 - 73016 口座名 六甲伯友会

伯友基金への振込は

●三井住友銀行六甲支店 (421)

口座番号 (普通) 3692900 口座名 伯友基金

伯友奨学基金への振込は

●三井住友銀行六甲支店 (421)

口座番号 (普通) 4513835 口座名 六甲伯友会奨学金

伯友 79 号

発行日 2021 年 12 月 3 日

発行人 藤本久俊

編集 広報委員会

印刷 (株)学術出版印刷

構成 久井千岳

伯友会事務局

〒657-0068

神戸市灘区篠原北町 1 丁目 8 番 25 号

六甲学院生徒研修所内

TEL.078-861-6588 FAX.078-861-6573

E-mail office@hakuyu.jp

ホームページ: www.hakuyu.jp

2022 年の「平成塾」について

東京での「平成塾」は「令和塾」と改められましたが、神戸では「平成塾」の呼称を継続します。

新型コロナウイルスの感染の影響を受け、2 年続けて総会・懇親会の開場開催が中止となりました。

「平成塾」も予定していた酒井司教様 (35 期) のお話を聴く機会を失いました。予定通りの開催であれば教皇様が来日された時のエピソード等を含めたお話を用意されていまして。流石にご本人も賞味期限切れだとお感じになられている様子でしたので、今回は基調講演という形で 30 分のショートバージョンでお願いしました。

残りの一時間半は、参加者全員による討論会をしようと考えています。3 つのテーマを 30 分ずつと考えています。

私達 32 期生はよく同期で語り合いました。恋愛のこと、生きるとはどういう事か、宗教とは何なのか、理想の社会とはどんな世界なのか。勿論答えなど出る訳はありません。それでも私達は語り合いました。高 1 の時だったと思います。体育祭の練習をしている時、高 3 の指導方法が気に入らず、32 期生は練習をボイコットし、連日学年集会を学校で遅く迄やりました。先輩と後輩のあり方や民主的な指導方法はどうあるべきか等。その時、高 3 の人達も学校の先生達も私達が結論を出す迄、じっと待っていてくれました。どういう結論に至ったか、実はよく覚えていません。しかしその後 32 期は練習に復帰し、体育祭も無事終了しました。あの頃の六甲には熱情と共に大らかさが有ったと思います。そのお蔭かどうかは分かりませんが、32 期は 65 歳になった今もとても仲良しです。

そんな時代が懐かしく今回の企画を考えました。みんなで語り合おうテーマは来年 3 月発行の「伯友」春号で募集します。目まぐるしく変化する世の中であって、六甲生とは何か。六甲 0B としてどう生きるべきか。そんな答えの出ない議論をみんなでやりたいと思っています。

今回の「平成塾」は皆さんが主役です。

「平成塾」世話人 32 期 近藤 健

【ご案内】 新型コロナウイルスの影響により2021年度はWeb（オンライン）開催となりました
2022年度はワクチン接種の進展などにより状況が落ち着いていることを期待して
感染対策に十分配慮しながら 3年ぶりの現地開催を目指して準備しております
(現地開催とWeb配信を組み合わせたハイブリッド方式を予定)



2022 年度 六甲伯友会 懇親会

2022年 4月23日 (土)

@神戸ポートピアホテル 本館

東京での
関東支部懇親会は
上智大学にて
開催方針
(日程未定)



平 成 塾

12:30 ~ 14:30

本館 2 階 のじぎくの間

【基調講演 + 参加者による討論会】

総 会

15:00 ~ 16:00

本館 2 階 のじぎくの間

懇 親 会

16:30 ~ 18:30

本館地下 1 階 偕楽の間

(16:00 開場)

【講演】「六甲精神の源流を辿る」 第9代校長 古泉 肇 様

【幹事グループより】

2022年度は54期が担当いたします。初のオンライン開催実現のためご尽力された
53期の先輩方からバトンを受け継ぎ、今回は現地開催とWeb配信を組み合わせた
新たな方式に取り組む予定です。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

<54期> 代表: 石井 会計: 末松 企画: 石塚, 岸本, 道信 広報: 山中
関東メンバー: 安富, 池田, 門元, 土井, 久野, 柴垣



伯友

2021. 11 No.79

- 発行人 藤本久俊
- 編集広報委員会

伯友会事務局

〒657 神戸市灘区篠原北町1丁目8番25号
-0068 六甲学院生徒研修所内
TEL 078-861-6588, FAX 078-861-6573
Eメール: office@hakuyu.jp
ホームページ: www.hakuyu.jp